

千葉県科学館
平成 29 年度 事業計画書

平成29年3月31日

千葉県科学館指定管理者
コングレ・東急コミュニティー共同事業体

目次

1 科学事業の実施に関する業務計画.....	1
(1)基本的業務.....	1
ア 開館日及び開館時間.....	1
イ 利用料金等.....	3
ウ 組織図及び職員の配置.....	5
エ 広報・プロモーション業務.....	7
オ 情報管理業務.....	10
カ 緊急時対応業務.....	11
キ 接客業務.....	15
ク 職員研修.....	17
(2)展示事業計画.....	18
ア 常設展示業務.....	18
イ 企画展示業務.....	20
(3)教育普及事業計画.....	21
ア 講座等運営業務.....	21
イ 学校支援業務.....	28
ウ 研修支援業務.....	29
エ アウトリーチ活動.....	30
オ その他.....	33
(4)プラネタリウム事業計画.....	37
ア プラネタリウム機器等管理業務.....	37
イ 投影業務.....	37
ウ 投影プログラム作成業務.....	39
エ 天文普及業務.....	40
(5)ボランティア事業計画.....	42
ア 科学館ボランティア募集・育成業務.....	42
イ 科学館ボランティア活動支援業務.....	44
(6)その他事業計画.....	45

ア	千葉市科学フェスタ	45
イ	つながりプロジェクト	46
ウ	ミュージアムトライアングル連携事業	47
エ	リピーター対策事業	48
オ	ミュージアムショップ運営事業	49
2	入館の制限に関する業務	51
3	維持管理業務	52
(1)	保守管理業務	52
ア	展示構造物等保守管理(教育普及チーム実施内容)	52
イ	展示構造物等保守管理(総務施設管理チーム実施内容)	52
ウ	プラネタリウム	54
エ	情報システム機器	55
オ	建築設備	56
(2)	什器・備品管理業務	57
ア	日常点検・保守	57
イ	定期点検	57
ウ	修繕対応	57
(3)	科学館バス駐車場管理業務	57
(4)	廃棄物処理業務	58
ア	一般廃棄物	58
イ	産業廃棄物	58
4	経営管理業務	59
(1)	事業報告書の作成業務	59
(2)	事業評価業務	59
(3)	関係機関等との連絡調整業務	59
(4)	再委託	59
ア	再委託の対象と留意点	59
5	自主事業計画	61
(1)	特別講座運営事業	61

(2)プラネタリウム特別投影事業.....	61
6 収支計画	63
(1)様式第4号 平成29年度管理業務に関する収支予算書.....	63
(2)様式第4号 平成29年度自主事業に関する収支予算書.....	65

4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150

1 科学事業の実施に関する業務計画

(1) 基本的業務

ア 開館日及び開館時間

【休館日】

年末年始 12月29日(金)～1月1日(月)

※なお、1月2日(火)～1月3日(水)は開館日とする。

【施設の保守点検に要する日】

展示装置等機器点検日：毎月最終週月曜日実施を基本とする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
17日	8日	26日	10日	—	4、25日
10月	11月	12月	1月	2月	3月
30日	27日	18日	22, 23, 24日	13日	19日

プラネタリウム点検日：年2回・連続3日

1回目	2回目
9月5日(火)～7日(木)	2月14日(水)～16日(金)

プラネタリウム番組入替日：年2回

1回目	2回目
5月9日(火)～11日(木)	10月31日(火)

- ・ 4月24日(月)は5月の大型連休直前にあたるため、前週の4月17日(月)を機器点検日とする。
- ・ 5月15日(月)・22日(月)・29日(月)は運動会の振替休日として設定している学校が多いことから5月8日(月)を機器点検日とする。
- ・ 7月17日(月)・24日(月)・31日(月)は夏季休業期間直前・期間中にあたるため7月10日(月)を機器点検日とする。
- ・ 8月28日(月)は夏季休業期間中のため、8月の機器点検日はプラネタリウムの機器点検日と合わせて9月4日(月)とする。
- ・ 12月25日(月)は冬季学校休業期間中にあたるため、12月18日(月)を機器点検日とする。
- ・ 1月22日(月)、1月23日(火)、1月24日(水)は機器点検日とし、冬季学校休業期間後の設備保守を行う。
- ・ 2月19日(月)・26日(月)は、平成30年度学校団体予約受付準備。また、2月12日(月)は祝日のため、2月13日(火)を機器点検日とする。
- ・ 3月26日(月)は春季休業期間中にあたるため、3月19日(月)を機器点検日とする。

【開館時間】

■ 通常

常設展示：午前9:00～午後7:00(入館は閉館の30分前まで)

プラネタリウム：午前9:00～午後8:00(※)

※基本として初回投影開始 午前10:00、最終投影開始 午後7:00とし利用者の動向を考慮して市と協議の上、変更を検討する。

■ 年始

年始の開館時間は平成29年度運営状況を踏まえて千葉市教育委員会と協議の上決定する。

千葉市科学館 平成29年度 休館日

4月							5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1		1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
								●	○	○	○																
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
																						●					
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
	●																										
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	
															●												
30																					30	31					

8月							9月							10月							11月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	
								●	○	○	○																	
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30			
								●							●	○						●						

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
								x																			
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
																●	○	○	○								
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
	●							●	●	●												●					
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31
					x	x																					
31																											
x																											

●-機器点検日 ○-プラネ点検日 ◎-番組入替日 x-年末年始休業

イ 利用料金等

【料金表】

区分	常設展示	プラネタリウム	セット券(常設展示+プラネタリウム)
大人	510 円	510 円	820 円
高校生	300 円	300 円	490 円
小・中学生	100 円	100 円	160 円

企画展示料金に関しては開催前に千葉市教育委員会と協議の上決定する。

【年間パスポート】

利用者区分	個人会員	家族会員	
		8名まで	9名以上の追加料金
大人	3,000 円	5,000 円	3,000 円
高校生	2,000 円		2,000 円
小・中学生	1,000 円		1,000 円

【減免】

千葉市科学館管理規則(H18.9.22、教委規則第7号)、千葉市科学館管理運営の基準、及び指定管理者の提案に基づき減免対象者を以下の表のように設定する。

幼稚園・保育園については、市内外、認可、無認可を問わず、原則、学校団体として受け入れる。受け入れに際しては、本施設利用を申し込む団体の代表より、申込団体の活動理念、活動内容を明記した書類を事務局に提出いただき、減免の対象となるか判断する。事務局での判断が難しい場合は都度、所管課に確認を行う。

【平成 29 年度に留意する事項】

■ 高校生無料開放日

平成 21 年度により実施した「高校生無料開放日」を設定する。平成 29 年度 10 月～平成 30 年 3 月の期間中、科学館イベントの実施状況・実施内容を踏まえて 2 日間設定、実施する。実施日にあたっては、前半期の実績を踏まえた上で、運営協議会にて協議の上、設定する。

■ 科学教育に関する重要事業開催に伴う無料開放日の設定

「青少年のための科学の祭典」「千葉市科学フェスタ2017」「千葉市立小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会科学部門」など重要事業の開催時の施設無料開放を検討する。

千葉県科学館 減免一覧

根拠	対象	常設展示	プラネタリウム	企画展示	プラネタリウム 特別投影	バス 駐車場
管理規則第5条1号	市立学校団体利用 (小学校、中学校、特別支援学校、高等学校)	無料	無料	2割引	2割引	無料
管理規則第5条2号	身体障害者手帳、保健福祉手帳、療育手帳提示者	無料	無料	2割引	2割引	-
管理規則第5条3号 委員会が特に必要が あると認める場合	教育関係者、博物館関係者の視察	無料	無料	無料	-	●無料
	所管課長または館長が特に必要であると認めるもの 例)広報上の効果が期待できる時など	無料	無料	無料	-	●無料
	市内の幼稚園・保育園の団体利用時の引率職員 (園職員に限る)	無料	無料	2割引	●2割引	-
管理運営の基準第3 科学事業の実施に関 する業務の内容及び その水準 1 基本的事項 (4)利用料金制度の 導入にあたっての留意 点	身障者手帳・保健福祉手帳・療育手帳・被爆者健 康手帳提示者1人につき介護者1人	無料	無料	2割引	2割引	-
	市民の日(10月18日)及び直近の土曜日・日曜日	無料	無料	2割引	2割引	-
	ふれあいパスポートの提示で利用する小・中学生 (土曜日利用)	無料	無料 (1日1回)	2割引	2割引	-
	市内在住65歳以上の方	無料	無料 (1日1回)	2割引	2割引	-
指定管理者の提案	千葉市内に存する学校団体 (幼稚園・保育園含む)	●無料	●無料	●2割引	●2割引	●無料
	千葉市外に存する学校団体 (幼稚園・保育園含む)	●無料	●無料	●2割引	●2割引	-
	市内「放課後子ども教室」の一環として利用する場合 の児童と引率者	●無料	●無料 (1日1回)	●2割引	●2割引	-
	高校生無料開放日(年2回)に身分証明を提示した 高等学校の生徒	●無料	●無料 (1日1回)	●2割引	●2割引	-
	被爆者健康手帳提示者	●無料	●無料 (1日1回)	●2割引	●2割引	-

● - 指定管理者提案

ウ 組織図及び職員の配置

平成 29 年度作成の業務分掌内容に沿って職員配置を行う

【幹部】

館長（科学館総括責任者）

副館長（科学館実務責任者）

副館長（教育アドバイザー責任者）

教育普及グループ長（事業責任者）

運営管理グループ長（運営責任者）

【リーダー】

教育普及チームリーダー（教育普及事業実施責任者）

天文チームリーダー（天文・プラネタリウム事業実施責任者）

ボランティア活動推進チームリーダー（ボランティア事業実施責任者）

企画戦略チームリーダー（科学都市戦略・その他事業実施責任者）

【サブリーダー】

教育普及チームサブリーダー

ボランティア活動促進チームサブリーダー

広報チームサブリーダー（広報業務責任者）

利用促進チームサブリーダー（団体受付・案内・その他業務実施責任者）

総合受付チーフ（受付・誘導・発券・その他業務実施責任者）

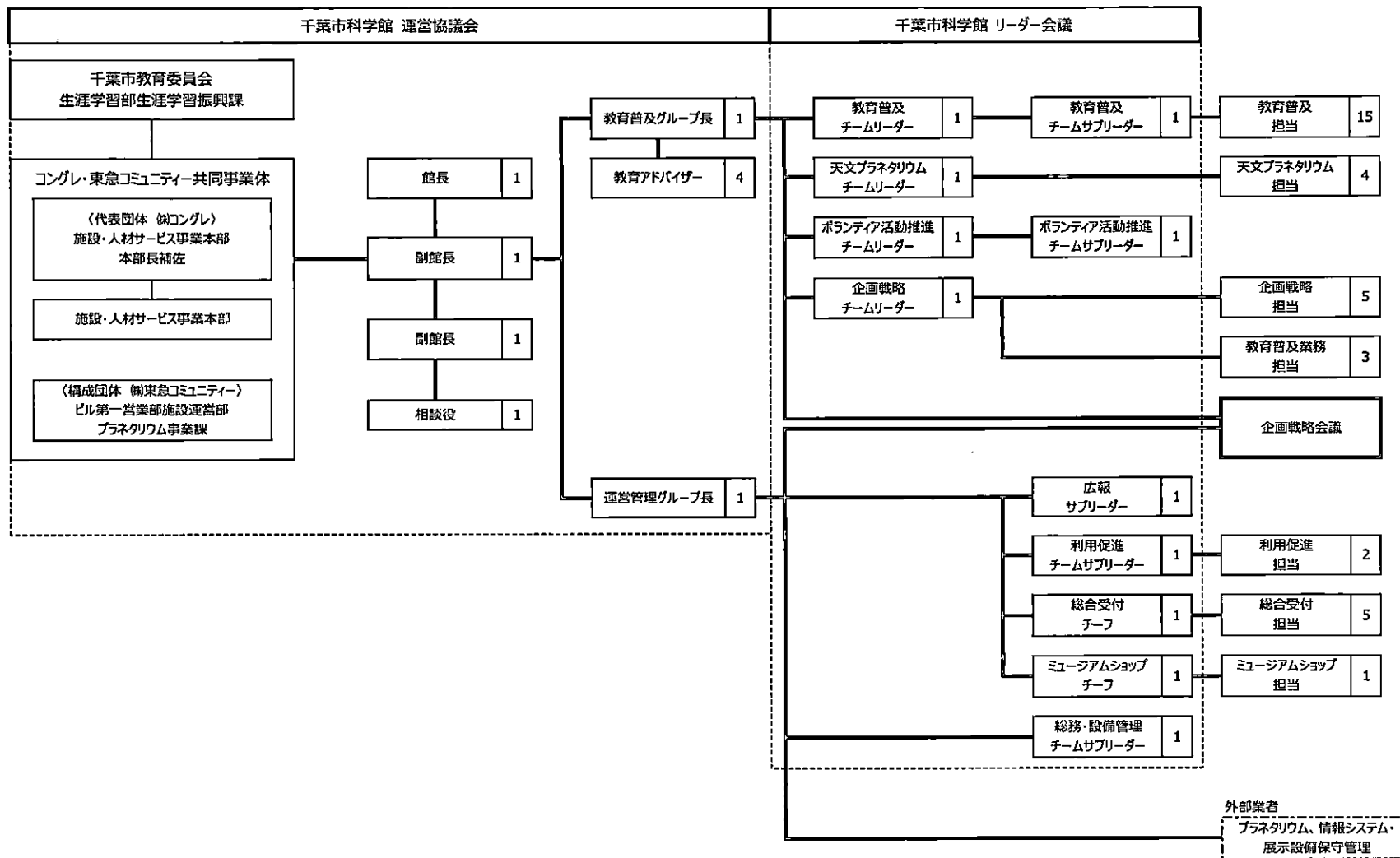
ミュージアムショップチーフ（ミュージアムショップ事業実施責任者）

総務・設備管理チームサブリーダー（庶務経理業務実施責任）

【平成 29 年度に留意する事項】

平成 29 年度は、前指定管理者が作成した組織図に基づいた管理運営の体制とするが、平成 30 年度に向けて組織を変更していく。

平成29年度 千葉市科学館組織図



エ 広報・プロモーション業務

【基本方針】

- ・ 前指定管理者が前年度まで実施していた広報施策を継続し、タブレット等を利用したニーズ調査を行い利用者の裾野を広げる。
- ・ チラシ配布の強化
- ・ 利用者アンケートを実施
- ・ ホームページにスマートフォンサイトを立ち上げ
- ・ マスメディア、市内交通媒体、地元ミニコミ誌等、それぞれの媒体の特色を幅広く活用したPR活動の実施
- ・ 地域連携事業の推進による科学館活動の認知促進
- ・ 学校連携推進、ルート訪問による積極的な来館誘致活動
- ・ 県内市町村及び類似施設等との連携を密にした広報活動の展開
- ・ メンバー会報誌など印刷媒体を使用しての最新科学館情報発信
- ・ 科学館内における広報活動。(チラシの設置、ポスターの掲出など)
- ・ ボランティア活動推進チームとの連携による館外でのPR活動
- ・ 企画展開催期間外での企画展示室利活用による未利用者層の来館促進活動
- ・ 千葉県内大学との連携による科学情報の発信
- ・ 企業連携イベントによる来館促進(化粧品会社、食品会社、その他)
- ・ タイムリーな話題提供による利用促進(講座、講演)
- ・ 「千葉県科学館」について周知徹底

【具体的方策】

■ メディア対応

- ・ 市政だよりへの情報提供
- ・ 市政担当記者へのプレスリリース発信
- ・ 各報道機関へのイベント情報メール配信及び電話、FAX 送信による告知
- ・ 旅行情報誌、天文雑誌、タウン誌、フリーペーパーなど編集社への情報提供
- ・ インターネット情報発信サイト運営会社への情報提供
- ・ 千葉県科学館ホームページでのイベント情報告知の徹底
- ・ NHK 千葉放送局連携 FM ラジオ番組「星空カフェ」コーナー出演による情報発信

科学館 PR 事業	ラジオ出演
番組名	NHK FM ラジオ「ひるどき情報ちば」 毎週月～金 11時00分～12時00分 毎月第1週火曜日「星空カフェ」コーナー(11:38～11:45) 周波数:千葉 80.7MHz 館山 79.0MHz 白浜 82.9MHz 勝浦 83.7MHz 銚子 83.9MHz
実施日	下記参照
科学館担当部署	事業開発チーム 広報・連携事業
場所	NHK千葉放送局2階スタジオ
内容	FM 番組「ひるどき情報ちば」の番組内の「星空カフェ」コーナーにて、毎月1回、星空解説を行う。 放送予定日時:NHK 番組編成会議により2月決定予定。平成28年度実績;毎月第1週の火曜日。休館日の場合は事前録音にて対応。 <u>平成29年4月4日(火)、5月2日(火)、6月6日(火)、7月4日(火)、8月1日(火)、9月5日(火)、10月3日(火)、11月7日(火)、12月5日(火)、平成30年1月9日(火)、2月6日(火)、3月6日(火)</u> 放送形式:「スタジオ生出演」※9/5、11/7は、事前録音の予定) 出演予定:天文プラネタリウム担当者

■ 館外活動

- ・ きぼーる 1階大型 LED ディスプレイの活用
- ・ 千葉県観光協会・千葉県観光協会への情報提供
- ・ JR 千葉駅・京成千葉中央駅・千葉都市モノレール菟川公園駅 屋外広告設置。
- ・ 千葉中央バス 中つり広告の活用
- ・ 千葉銀座通り商店街その他千葉市内・千葉県内の文化施設でのチラシ配布拠点の確保。
- ・ 千葉銀座通り、中央通り商店街へのポスター掲出依頼。
- ・ 教育普及事業スタッフ、教育アドバイザーとの連携により学校行事の場を借り、団体利用の手引、タイムリーな企画イベントチラシ、ポスター配布、団体受入れ体制、学習内容説明実施。
- ・ 子供会誘致の目的で市子連、県子連訪問。団体利用手引き、チラシ、ガイド配布。
- ・ 市内、近隣施設へルート訪問。チラシ、パンフレット、ポスター配布強化。
- ・ 親子三代夏祭りにて科学館の出前ワークショップ。
- ・ 市内出張ワークショップ実施(そごう千葉店、QVC マリンフィールド、幕張メッセ、その他)
- ・ 市外出張ワークショップ実施(船橋西武、その他)

■ 各種広報物掲出・配布

- ・ 市内学校・生涯学習施設へ毎月 1 回の科学館情報印刷物
(プラネタリウム・スケジュールやイベント情報、企画展ポスター、チラシ、メンバー会入会案内など)の配布。
- ・ ターゲット層を明確に設定し企画展告知ポスターの配布を実施
- ・ 千葉市内・千葉県内・その他の文化施設へ企画展・イベントのポスター・チラシの配布

■ ホームページ対応

- ・ スマートフォン用サイトを立ち上げ利便性と利用頻度を向上させる。

■ Twitterの活用

- ・ 千葉市科学館名でのアカウントの取得と科学館ホームページのフォローボタンの貼り付け

① 導入目的

- ・ 潜在的な利用層の誘客強化を図る
- ・ リツイートによる情報拡散を図る

② メインターゲット

- ・ 現在の科学館ホームページやチラシでは誘客が十分出来ていない層
(科学を難しいものとイメージしている方)
- ・ 未就学児童の母親を中心とした保護者
(科学館デビュー支援、10 階「たん Q ひろば」を活用しての未就学児の来館促進)
- ・ 平日の学校団体利用後の幼稚園・保育園・小学生と家族(興味を持ち始めた方)

③ 情報発信の内容

- ・ 見どころ情報(新イベントの情報など)
- ・ ミュージアムショップ情報(商品 PR など)
- ・ 常設展示、企画展示と連動した企画(「クイズラリー」など、科学館利用に+αするもの)

■ 未利用者層の来館促進

- ・ 企画展開催期間外での企画展示室の利活用(催し物やイベント開催)により普段から科学館になじみがないお客様の来館促進

■ 6 階子育て支援館と連携して計画、幼児や未就学児を来館促進

- ・ 幼児対象のプラネタリウムを検討
- ・ 平日午前中に未就学児連れの保護者対象の講座を開催

■ 最先端の科学情報の発信

- ・ 千葉県内の大学や研究機関と科学の最先端情報を共有し、利用者へ情報発信をすることで科学の面白さを伝える

オ 情報管理業務

【基本方針】

平成 19 年 10 月 20 日に策定した『千葉市指定管理者 情報公開及び個人情報保護規程関係資料集』（情報公開規程関係（「情報公開規程」「様式集」「情報公開事務処理要項」）、個人情報保護規程関係（「個人情報保護規程」「取扱業務書」「様式集」「個人情報保護事務処理要項」「プライバシーポリシー」「事務の委任に関する留意事項」））に基づいて、各規程・事務処理要項を遵守し、情報公開及び個人情報保護並びに文書管理を、「情報セキュリティ管理」として一体的に取扱い、管理体制を一本化する

■ 情報公開

本施設の管理運営にあたり作成又は取得した文書等のうち、公開の必要な情報に関する開示請求に対し、適切に対応するとともに、以下の必要な措置を講じる

- ・ 対象文書の全部又は一部を開示するか、全部を開示しないなどの決定をすること
- ・ 対象文書の開示決定等に対する異議申出を受けて再決定すること
- ・ 対象文書を適切に管理すること
- ・ 情報提供施策を充実させること

■ 個人情報保護

本施設を管理運営するにあたり知り得た利用者等の個人情報について、漏えい、滅失又は毀損の防止等、個人情報の適切な管理のために以下の必要な措置を講じる

- ・ 個人情報を適切に取り扱うこと
- ・ 個人情報の開示、訂正、及び利用の停止を受けて決定等を行うこと
- ・ 前項の決定等に対する異議申出を受けて再決定すること
- ・ 個人情報保護に対する意識を醸成するための研修を実施する

【具体的方策】

■ 情報公開

- ・ 文書管理シート及び文書管理台帳を日常的に活用・整備し、対象文書の保管・保存管理を徹底する
- ・ 情報公開請求の一連の流れについての対応内容・手順を館職員に周知徹底する

■ 個人情報保護

- ・ 人的及びシステムの要因による個人情報の漏えい防止
- ・ 利用者による、他利用者や館職員へのなりすまし防止
- ・ 個人情報取得の際の、利用目的の特定及び利用目的以外の利用禁止
- ・ 個人情報の適正な取得及び利用目的の通知
- ・ 不要になった個人情報の適正な廃棄

- ・ 利用登録メンバー会やボランティア、イベント参加者などの個別事業推進上取得している個人情報の取扱いについて、業務上留意すべき事項を手順書として取りまとめる
- ・ ホームページの安全な通信環境の確立(世界標準サーバ証明書取得)を引き続き実施し個人情報のセキュリティ強化及び、ホームページの信頼性向上を図る

カ 緊急時対応業務

【基本方針】

- ・ 副館長(実務責任者)は防火管理者・防災管理者の資格取得者とする
- ・ 副館長を隊長とする自衛消防隊を組織、緊急時には管理組合・防災センターと連携して対応を行う
- ・ 千葉市の「避難場所・避難所」指定への対応として、指定場所 10 階スカイガーデンでの一次的な生活の本拠地として宿泊滞在を想定し、防災用品備品の配布等千葉市教育委員会と協議を行い実施する

【具体的方策】

■ 年間計画

- ・ 4月： 学校団体受入が本格化することに備え、再度団体誘導時の非常対応に関して関係者全員で確認会を実施する
- ・ 6月： 消防・防災訓練 きぼーの消防・防災訓練と合わせて実施(予定)
- ・ 7月： 一年で最も利用者の見込まれる夏休みを前に、きぼー管理組合との個別打合せを持ち、安全管理の再確認を実施する
- ・ 9月： 施設防災備品の確認等を実施する
- ・ 11月： 消防訓練 きぼー全体の消防訓練と合わせて実施(予定)
- ・ 順次： 非常勤職員等の雇用に伴い、各種マニュアルに基づいた新人教育を実施する

- 平成 19 年度作成、平成 27 年 4 月加筆の各種マニュアル内容に沿って対応を行う。
概要を以下に記載する。

地震発生時

地震発生時の対応

① 緊急地震速報が発せられた場合

- ・ 館内放送にて、緊急地震速報が発せられたことを館内に周知
- ・ きぼーは地震に強い建物であることを案内し、その場で待機いただくよう案内

② 震度 3 以上の地震があった場合

- ・ エスカレーター・エレベータの防護措置
- ・ 各フロアで所定の位置にお客様を誘導、その場で待機

- ・事務局は防災センターに連絡、指示を待つ

火災発生時

火災発生時の対応

① 自動火災警報装置が発報した場合

- ・「現場へ確認に行く」と共に、副館長に連絡
- ・きぼーる防災センターに連絡
- ・同時に、非常放送設備を使用して、火災の確認をおこなわせる
- ・きぼーる防災センターより複合施設全館へ連絡

② 火災が確認されたら

- ・「大声で周囲に知らせる」
- ・消火栓等の非常ベルのボタンを押す
- ・きぼーる防災センターへの連絡
- ・043-308-0382 内線:8670
- ・非常電話等で周囲に知らせる
- ・次の点を発見者により119番通報
- ・所在地、施設名
- ・火災の状況
- ・副館長(実務責任者)への連絡
- ・副館長(実務責任者)は現場に急行する

③ 初期消火

- ・消火器
- ・屋内消火栓等

大規模自然災害(台風・地震など)発生時の対応

- ・「公の施設」としての位置付けから、警報等が発令された時点で館内放送を実施。
- ・発令後、原則は直ちには閉館しないで、その取扱いについて市と協議する。
- ・市に災害対策本部が設置された際、館職員は館にて待機し所管課の指示に従って行動し、災害の程度に応じた配備体制をとる。
- ・宿泊滞在が想定されている10階スカイガーデンは、十分に安全確認をしてから使用する。
特に、地震の揺れにより、吊り天井が外れ、ボルトだけで天井が支えられている状態のときは危険なため使用しない。

停電時等の電気トラブル発生時の対応

- ・入退館も含め、復旧までその場で待ついただくことを基本とする。
- ・ただし、復旧に時間がかかる場合や、来館者に特別の事情がある場合に限り、移動することは本人の自由意思に任せる。

急病人発生時

傷病人対応は、人の生命にかかわる事項で、以下の点に留意し、冷静沈着な状況判断と可及的速やかな対応を行う。

- ・傷病者の安全確保。・素人判断に基づいた処置は絶対に行わない。
- ・急病については直ちに 119 通報。
- ・対応手順の詳細は、運営マニュアルにて規定。

不審者対応

不審者対応は、多くの市民等が来館する施設であり、来館者の安全確保を最優先に、以下の点に留意し、冷静沈着な状況判断と可及的速やかな対応を行う。

- ・不審者を発見した場合は、ただちに副館長(実務責任者)・運営管理グループ長へ連絡。
- ・無線機より全スタッフへ不審者発見、注意連絡をする。
- ・周辺の来館者を遠ざける対応手順の詳細は、運営マニュアルにて規定。

【各種保険の加入】

■ 損害賠償保険(第三者)

保険の対象:来館者等

対応する保険:施設管理者賠償責任保険

保険金額:1事故身体・財物共通

1,000,000 千円

保険料計算基礎額:本施設及び駐車場の面積 13,067 m²+508 m²

保険の概要:

- ・ 対象となる損害・事故:
保険契約者が所有・使用または管理している各種の施設・設備・用具等の不備や業務活動のミスが原因で他人の身体や財物の障害・損壊が生じ、被害者に損害賠償をすることにより被害者を補償。
- ・ 対象とならない損害・事故:
保険契約者の故意、契約によって加重された責任、管理財物に与えた損害、従業員が被った身体障害に起因する損害賠償責任、戦争・暴動・労働争議、地震、噴火、津波などの天災による賠償責任、排水/排気、自動車や航空機の使用・管理等。

■ 火災保険

保険の対象:展示構造物

対応する保険:ビジネスパッケージ

保険金額:880,000 千円

保険の概要

- ・ 対象となる損害・事故:
火災、落雷、破裂・爆発、風・雹・雪災、騒擾労働争議による暴力行為、盗難、給排水設備の故障による水濡れ、建物外部からの物体の落下、飛来、衝突、電氣的機械的事故、その他不測かつ突発的事故
- ・ 対象とならない損害・事故:
保険契約者、被保険者等の故意、重大な過失、法令違反、瑕疵による損害、自然の消耗、さび、腐食等、戦争・内乱、地震・噴火・津波 等

■ 損害賠償保険(バス車体)

保険の対象:バス車体

対応する保険:自動車管理者賠償

保険金額:1事故・期間中共通 20,000 千円

保険の概要

- ・ 対象となる損害・事故:
被保険者(駐車場管理者)が、受託した自動車の損壊(滅失、毀損、汚損)盗取・詐取、紛失につき自動車について正当な権利を有するものに対して法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害をカバーする保険
- ・ 対象とならない損害・事故:
保険契約者・被保険者の故意、契約によって加重された責任、従業員が被った身体障害に起因する損害賠償責任、戦争・暴動・労働争議、地震、噴火、津波などの天災による賠償責任、排水/排気、原子核反応等、使用不能損害(代車費用等も含む)、無免許・酒酔い運転。

■ 個人情報漏洩保険

保険の対象:個人情報の漏えい

対応する保険:IT業務賠償責任保険(情報漏洩限定プラン)

保険金額:

- ・ 損害賠償:1 請求・期間中 100,000 千円
- ・ 費用:1 請求・期間中 10,000 千円

保険の概要:

- ・ 対象となる損害・事故:
被保険者(事業者)が、管理する個人情報を漏洩させてしまったことにより損害賠償責任を負担すること、或いは事故解決のために見舞金の支払等を行うことによって被る費用損害をカバーする保険です。(外部からの攻撃(ウイルス、不正アクセス等)による漏洩、社員・派遣社員等による過失は勿論、従業員等の故意による漏洩もカバーされます。
- ・ 対象とならない損害・事故:
個人情報以外の情報漏洩、被保険者(事業者)の犯罪行為、故意、重過失による法令違反、無資格等で行われた行為による漏洩、被保険者が管理する個人情報を無断で第3者と共同して利用したことに対する賠償責任、日本国外で提訴された賠償請求、被保険者間の損害賠償請求等。

■ 運送保険

保険の対象:業務用の現金・小切手などの保管中輸送中の危険

対応する保険:マネーフレンド

保険金額:30,000 千円

保険の概要

- ・ 対象となる損害・事故
盗難、火災、風水災、輸送用具の衝突、その他偶然な事故
- ・ 対象とならない事故
保険契約者・被保険者の故意・重過失、戦争・暴動・ストライキ、テロ、地震、噴火、津波などの天災、保管中の紛失・原因不明の数量不足、偽造・変造等、回収不能、不渡り等、詐欺横領、恐喝、勘定間違い、コンピューターシステムの操作、自然の消耗、拿捕、検疫、抑留、押収、荷造りの不完全、化学・生物兵器・原子核反応による事故、携行中の置き忘れなど

■ ワークショップなど館外活動に関する保険

保険の対象:科学館主催事業を館外で行った際の事故

対応する保険:国内旅行傷害保険

保険金額:死亡・後遺障害 9,300 千円

入院保険金日額 9,000 円

通院保険金日額 5,000 円

賠償責任限度額 30,000 千円

保険の概要:

- ・ 対象となる損害事故
国内旅行工程中の急激かつ偶然な外来の事故による怪我、またはそのため事故日からその日を含めて180日以内に死亡、後遺障害が生じた場合の保障。
 - ・ 対象とならない損害事故
契約者または被保険者の故意または指図による暴行、殴打による損害賠償責任地震・噴火、またはこれらを原因とする津波による損害。戦争、暴動等による損害。被保険者と同居する親族に対する損害賠償責任。自動車、オートバイ等の車両、船舶、航空機、銃器の所有、使用、管理に起因する損害賠償責任
- 運用 館外プログラム参加者より実費として500円/1人を負担いただく。
(有料の場合は参加費より、無料の場合は保険料のみ徴収)

■ ボランティア保険

保険の対象：自発的な意思により谷にゃ社会に貢献する無償のボランティア活動

対応する保険：ボランティア活動保険

保険金額：死亡・後遺障害 12,000千円

入院保険金日額 6,500円

通院保険金日額 4,000円

賠償責任保険 500,000千円

保険の概要

- ・ 対象となる損害事故
ボランティアがボランティア活動中の急激かつ偶然な外来の事故により怪我をされた場合や、偶然に事故により他人に怪我をさせたり、他人の物を壊したことにより法律上の損害賠償責任を負う場合。
- ・ 対象とならない損害事故
怪我の補償
故意または重大な過失、自殺行為・犯罪行為または闘争行為、脳疾患・疾病・又は心神喪失、無資格運転・酒気を帯びた状態での運転、地震・噴火または津波、核燃料物質の有害な特性などによる怪我、頸部症候群・腰痛等で医学的他覚所見のないもの、ピッケル等の登山用具を使用する山岳登山等危険な運動を行っている間の事故、職業又は職務に従事している間の事故
賠償責任の補償
故意、地震・噴火または津波による事故、核燃料物質の有害な特性等による事故、心神喪失に起因する事故、航空機・自動車または銃器の所有・使用または管理に起因する事故、被保険者の職業上の職務遂行に直接起因する事故、人または動物に対する診療・治療・監護・疾病の予防・救急救命処置または死体の検案に起因する事故、医薬品または医療器具の調剤・調整・鑑定・授与または授与の指示に起因する事故、専門職業人資格に基づいて行う施術に起因する事故

キ 接客業務

【基本方針】

千葉市科学館は「人が主役」を基本におき、さまざまな方が利用しやすく、自ら参加体験できる科学館として、来館者の体験を職員・ボランティアが支援する施設である。

子どもから大人まで、すべての市民が等しく千葉市科学館を利用でき、より多くの方が科学に触れ合う機会を創出する「すべての人に開かれた科学館」を目指し、来館者と職員・ボランティアが人と人とのコミュニケーションを介して、多様な気付きや、科学的な見方や考え方を育む場を提供する接客を心掛け、実践する。

千葉市科学館では以下の点を旗印に掲げて科学都市にふさわしい施設を目指す。

「人がみつける科学館」 来館者が科学に対するこころとセンスをみつける
「人をつなぐ科学館」 千葉市科学館を強力な触媒として人と人がつながる
「人があつまる科学館」 科学の分野に留まらず多様な力があつまる

【具体的方策】

■ 接客業務

- ・ 年に1度、指定管理者本社の講師による全職員を対象とした接客研修を実施する
- ・ 接客研修については、単にフォーマルな言葉遣いや所作を学ぶ場ではなく、顧客のニーズをいかに汲みとるかを第1の目的としたカリキュラムとする

■ 要望・苦情

- ・ 平成19年度10月策定「クレーム対策」マニュアルに準拠して対応
- ・ 出勤シフトにおいては必ず責任者(幹部)が最低一人は館にいるよう運用し、クレーム発生時には二次対応を行う
- ・ クレーム・要望発生時にはクレーム報告書を作成、所管課に提出するとともに館内回覧し再発防止を図る

■ ユニバーサルサービス

- ・ 誰もが利用しやすい施設を目指し、来館者に関わる全ての職員・ボランティアには、障害を持つ方や高齢者、外国語圏の方など様々な利用者への理解をすすめる研修「ユニバーサルミュージアムを考えよう！(案)」（休館日を中心に連続の講座・ワークショップ）を実施し、今後の科学館運営に活かすこととする

「講座予定」

第1回:「高齢者理解」

内容:高齢者の特徴や注意点、対応について配慮すべき点や認知症への理解について学び、研修の後半では高齢化社会の中で科学館としての配慮や対応を検討する。
他、テーマを変えて2回程度実施

- ・ 科学館ホームページに障害に応じたアクセス情報の提供を行う
- ・ 館内に車いす・ベビーカーを配置

■ 迷子・拾得物

- ・ 各フロアにて活動する職員・ボランティアは、多客時においては、一人でいる子どもたちに積極的に声掛けを行い、迷子発生防止に努める
- ・ 迷子が発生した場合は全館職員にトランシーバーを使って一斉連絡を行い早急な発見に努める努力を行う。館内に家族が残っていないケースも想定し、管理組合・防災センターと連携体制を確立し取り決めた内容をマニュアルとして活用する
- ・ 拾得物の扱いについては、所管警察署の指導を仰ぎ適切に処理する。サイエンスショー・講座・プラネタリウムの会場はイベント終了後、ただちに職員が見回り拾得物を早期に発見、持ち主に戻りやすいよう配慮する

■ 利用者の誘導

プラネタリウム

- ・ プラネタリウムの出入口は南口を原則とする
- ・ ホワイエは一部躯体により狭い部分もあり、待機時にガラスによりかかると危険なため、ホワイエ手前に入場待ち列最前列の表示を掲出する
- ・ 入場待ち動線には男女トイレの入り口がある。利用者が使用しやすいよう配慮する
- ・ プラネタリウムから退出されるお客様と、8階からエスカレータで7階に下りるお客様が交錯しないよう配慮する
- ・ 投影時には投影者のほかに誘導担当がドーム内にはいり、投影中にやむを得ない事情で退出されるお客様の誘導にあたる
- ・ 最終投影時(19時)の退出は、常設展示場へあやまって入場されることを避けるため北口とする

車いす・ベビーカー

- ・ 館内にはエレベータがなく、多客時にエスカレータを車いすモードで使用するのは他のお客様の利便性を損なってしまうおそれがあるため、車いす・ベビーカーでのフロア移動については、職員がバックヤード側のエレベータに案内し、目的のフロアまでお客様をご案内する

団体対応

- ・ 団体での利用の場合、利用前にガイダンスを実施(アトリウム・ガイダンスコーナー・スカイガーデンなど)し、館内施設利用案内をする。また当日の変更・調整事項を含めて団体の情報を把握し、スタッフやボランティア間で周知の上、柔軟に対応する

ク 職員研修

階層別に研修を施し、各職員の持つ資質を多方向に伸ばし、「人が主役の科学館」の職員に育成する。

【具体的方策】

■ 施設間職員相互研修プログラム

千葉市科学館と、指定管理者が管理運営を行っている他施設の間で職員の相互交流研修を試験的に導入する。

■ 専門スキルプラスワン研修

職員自身の専門とする部門の研修に参加するだけでなく、他部門に関する研修への積極的な参加を促し、知識を広げる体制を試験的に導入する。

(2) 展示事業計画

ア 常設展示業務

展示事業名	展示の案内と解説
期間	通年
内容	展示をツールに、日常にある科学への「気づき」を促し、さらにそれを「検証」する場となるよう、来館者を案内する。展示に留まらず、日常生活の中で、自ら「気づき・調べ・検証する」、科学リテラシー向上を狙う。また、様々なバックグラウンドを持つボランティアの参画により、多彩な視点を獲得し、市民を飽きさせない新たなサイエンスコミュニケーションを行う

展示事業名	ターミナル向けワークショップ
期間	通年
内容	年齢制限を設けず、全ての年齢層の来館者を対象とし、ひとつのフロアの導入として実施する。各フロアの展示との連携を深め展示との関わりをつなぐような内容とする

展示事業名	ターミナル向けワークショップ(ボランティア実施)
期間	通年
内容	ボランティアが主体のワークショップ。各フロアの導入となるような内容とし、気軽に科学体験が出来る工作をメインとしたプログラムを実施。参加者とのコミュニケーションを通じて驚きと発見を共有し活動意欲を得ると同時に、個々の科学リテラシーの向上を図る。また、ボランティア企画によるプログラムの開発を実施する

展示事業名	展示向けワークショップ
期間	通年
内容	各展示エリアのテーマと日常を結びつけるワークショップ。ひとつの展示の解説に留まらず、展示と日常、展示と展示など、次に繋がる連続性を示唆するものとする。また、ボランティアの参画をより強化し、展示向けワークショップスペースとして、展示フロア内のカウンターも活用したものを企画・実施する

展示事業名	“科学のひろば”向けワークショップ
期間	通年
内容	展示エリアのテーマにまたがる内容のワークショップを実施。展示では、フォローできない内容やタイムリーな内容も取り入れる。 さらに、実施するワークショップの回数を増やし職員の対来館者への対応を強化。職員全体のベースアップをはかり、CS(顧客満足)を得られるようにする

展示事業名	科学館からの挑戦状
期間	通年
内容	展示物と関連性のあるものをテーマに、独創的な考え方や見方を引き出すことの出来る問題を出題。来館者の科学への探究心を高める

展示事業名	サイエンスショー
期間	通年
内容	サイエンスショーを開発・実施する。館スタッフによる身近な材料をテーマにしたサイエンスショーのほか、多客時には外部連携先によるショーも実施

展示事業名	テクノショップ運営業務
期間	通年
内容	9階テクノショップコーナーにて、企業の技術に関する展示を誘致する。千葉市内の企業を中心とした千葉県内の企業を6ヶ月ごとに2社程度ずつ入れ替えて実施する。出展企業には、展示期間内に講演会・講座・WSいずれかを依頼し、市民と企業が直接触れ合う機会を提供する。出展企業の選定には、千葉市産業振興財団、千葉県産業振興財団の協力を仰ぐ

展示事業名	プラスサイエンス運営業務
期間	通年
内容	科学館で活動しているボランティア(小中学生ボランティア含む)とメンバーの方々を対象とした市民参加型展示とする。現在、3つのミッションで運用し、今年度、新たなミッションを開発することにより、リピーターのこれまで以上の参加やミッションが増えることで広くアピールし、新しいターゲット層への獲得を目指す

展示事業名	「たんQひろば」10階 常設展示
期間	通年
内容	「たんQひろば」では、小さな子ども(未就学児)と保護者が楽しみながら「科学の芽」を育むことを目指す。家にある材料を使った工作や身近な科学が載っている本を活用して「ふしぎ」を再発見する。また、科学工作ワークショップ等を定期的実施

- 展示解説ツアーを試験的に実施する。

イ 企画展示業務

【5月の大型連休期間中の企画展】

企画展名	「びっくり深海調査隊 Part2 深海モンスターを探れ」
期間	平成 29 年 4 月 15 日(土)～5 月 14 日(日)予定
内容	未知なる世界「深海」をテーマにした企画展。Part1 とは異なる切り口で展開し、自分の描いた深海生物が泳ぎだす「アクアリウム」などの体験を通して、深海について学び、深海の魅力を体感してもらう。

【学校等の夏季休業期間中の特別展】

特別展名	「昆虫ワールド」(仮)
期間	平成 29 年 7 月 14 日(金)～9 月 3 日(日)予定
内容	昆虫を“知る、ふれる、学ぶ”をテーマにした企画展。観察するきっかけを提供することにより、観察眼を養い、新しい発見を楽しむと同時に昆虫への興味を深めてもらう。また近年、様々な技術発展に寄与しているバイオミメティクス(生物模倣技術)も紹介する。

【秋季期間中の企画展】

企画展名	宇宙の日記念「全国小中学生作文絵画コンテスト」
期間	平成 29 年 11 月 17 日(金)～12 月 10 日(日)予定
内容	宇宙開発の普及啓発を行うとともに、好奇心・創造力を育成する事を目的とした小・中学生の絵画・作文を科学館で募集、審査し、入賞者の表彰式を行う。また入選作品を中心に、応募作品を企画展示室にて掲出する。

【冬季期間中の企画展】

企画展名	「ブラレール de 遊ぼう！」(仮)
期間	平成 30 年 1 月 2 日(火)～平成 30 年 2 月 12 日(月)予定
内容	知的玩具「ブラレール」を用いた企画展。ミッションに挑戦することによって創造力と自発性を養い、ルールを組み合わせる楽しさや目的を達成する喜びを感じてもらおう。また鉄道博物館とコラボすることによって、身近な鉄道に潜む科学技術への興味を抱かせる。

【学校等の春季休業期間中の企画展】

企画展名	「世にも不思議な科学館～錯覚のふしぎ～」(仮)
期間	平成 30 年 3 月 16 日(金)～4 月 8 日(日)予定
内容	人間の「視覚」をテーマにした体験型の企画展。私たちを取り巻く環境は、感覚を惑わせる原因があちこちに潜んでいる。科学が創り出す錯覚の不思議を感じてもらい、好奇心や探究心を育む場を提供する。

(3)教育普及事業計画

ア 講座等運営業務

講座等種別	内容
土日講座	<p>科学に興味を持ち、知識を深めるきっかけとなる入門的な講座。実験や工作など、体験型プログラムを中心に実施。メンバー会員のみ事前予約を可能とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加機会確保の観点から、四半期毎に内容を更新する ・科学館教育普及チームによる、実験・科学工作などの講座は、1時間程度の簡単な内容とし、親子でも楽しめるプログラムとする ・NPO 法人等(ちばサイエンスの会、ちば算数・数学を楽しむ会、ニルス理科実験クラブ)による講座は、宇宙・数学・技術・理科実験関連等をテーマとした講座とする。各々の講座内容は、科学館教育普及チームが各団体と協議して決定する ・原則無料、工作実費の徴収は500円まで可とする ・8月はサマースクール実施のため休止する ・年間200回程度開催する
企画講座	<p>時代の流れを反映し、社会における科学・技術の在り方や、科学・技術が浸透した社会で生きていくことについて、市民が日常生活との観点から考え、それを生活や人生に活かしていくことにつながる講座を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学と生活を考える講座(大人のための科学教室等) ・ロボットの技術を紹介するワークショップ等 <p>※講座・カフェ・ワークショップなど様々な形式で実施する ※原則無料、工作実費の徴収は1,000円まで可とする</p>
ボランティアによる企画講座	<p>ボランティアが主体となり講座を企画・実施する。企画構成、予備実験、演示方法など館職員がアドバイスを行ない、今後のボランティアを中心としたイベント企画・運営の基礎を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市科学館で活動するボランティアによる、講座・ワークショップの場とし、市民による市民に向けての科学コミュニケーションの機会とする
外部連携講座	<p>千葉市内にある施設と連携し、各施設の特性を活かしたものを実施。諸施設への興味付けを行い相互の利用促進へつなげるものとする。また、諸施設職員と交流を図り、様々な情報や専門知識を得ることで、今後の事業展開を広い視野で捉え企画・運営する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市都市局公園緑地部 若葉公園緑地事務所 ・中央区保健福祉センター 健康課健康づくり係 ・千葉工業高校 バットディテクター作り講座等

サマースクール	<p>学校の夏季休業期間に合わせて開催する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なテーマを題材とする講座を実施する ・参加機会確保の観点から、同一テーマを2回実施する ・テーマは10種類程度、受講者は10～30名程度とする ・夏休みらしいテーマを設定し、小中学生の集客を図る ・原則無料、工作実費の徴収は500円まで可とする ・講座は事前予約可能とする。ただし、当日枠も確保する ・開催回数は100回程度とする <p>[募集スケジュール(予定)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月上旬、千葉市内小中学校にイベントのお知らせを投げ込む ・平成29年6月23日(金)～30日(金)をメンバー会の先行予約期間とし、往復ハガキにて募集、応募多数の場合抽選にて、予約確定する ※落選したものは、一般予約枠へ移行し、再度抽選対象とする ・平成29年7月1日(土)より、往復ハガキによる一般予約開始(～7月15日まで)※7月16日以降、抽選により予約確定する ※事前予約枠に空きがある際には、メンバー会員向けに事前予約を実施する
夏期休業期間 小中学生 研究相談事業	<p>「ふしぎの芽がでる夏休み」7月24日(月)～8月6日(日)</p> <p>夏休み期間中、科学館内に小中学生の自由研究支援ブースを設け、ボランティア活動者が担当者となり研究支援を行う。会期以外の相談については、ボランティア活動推進が調整し、個別に対応する</p> <p>「夏休み自由研究講座～自由研究のテーマを決めよう～」7月1日(土)</p> <p>夏休みを前に、ボランティアによる「自由研究テーマ決め」を主題にした自由研究講座を実施する。低学年・中学年・高学年と、学年ごとに参加者をわけ、学年に応じた内容で実施する</p>
クラブ講座	<p>○千葉市少年少女科学クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成会との運営会議で年間計画を策定する ・科学工作の活動を通じて、科学的なものの考え方や豊かな創造力を育成する講座内容とする。基礎工作を経て、アイデア工作を年間32回程度行う ・科学技術週間に「1日工作体験教室」を実施する ・講師は同クラブ育成会より派遣を受け、講師に謝金を払う ・共催は公益社団法人発明協会、一般社団法人千葉県発明協会(運営事業費については3月半ばに決定) ・小学4年生～中学2年生が対象(定員36名/継続生を含む。) ・実費負担5千円を徴収。クラブ員には年間パスポートを発行する。パスポートを既に持っている場合は4千円を徴収する ・科学館は同クラブ育成会と運営会議を設置し、年間計画の策定及び実施状況の確認を行う。会議は半期に1回程度、年間2回程度行う。(日程は講師の都合を調整の上、都度決定する。) ・平成22～28年度にクラブを卒業した元クラブ生が、ボランティアで補助員としてクラブの運営に参加する場合、当日に限り、館内施設を無料(プラネ

	<p>タリウムを除く)とする [スケジュール(予定)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 5 月 1 日(月)～18 日(木) クラブ生募集 ・平成 29 年 5 月 28 日(日) 開講式(予定) ・平成 30 年 3 月 4 日(日) 閉講式(予定)
クラブ講座	<p>○チバシティアstroクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天体望遠鏡を製作して望遠鏡の仕組みを学ぶとともに、天体観測を通じて天文や宇宙への関心を高める講座内容とする。 ・天文や宇宙に関するテーマを各自設定し、調べ学習、発表を行なうことにより、自ら発信する力を身につける機会とする。 ・講師は平成 28 年度の講師(小中学校教員)に継続指導をお願いし、謝金を払う(各回 1～4 名、宿泊観測は 5 名) ・小学 5 年生～6 年生が対象(定員 30 名) ・実費を徴収(1万4千円程度)。クラブ員には年間パスポートを発行 <p>[スケジュール(予定)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 月 1 日号の市政だよりに掲載内容を掲載。同時に科学館の web に情報を掲載する。(募集期間:平成 29 年 5 月 1 日～20 日) <p>【活動日程(予定)(全 15 回)】</p> <p>平成 29 年 6 月 3 日(土) 第 1 回 開講式</p> <p>平成 29 年 6 月 17 日(土) 第 2 回 春の星座観察(プラネタリアム)</p> <p>平成 29 年 7 月 1 日(土) 第 3 回 天体望遠鏡のしくみを知ろう</p> <p>平成 29 年 7 月 15 日(土) 第 4 回 天体望遠鏡を作ろう(架台部)</p> <p>平成 29 年 7 月 22 日(土) 第 5 回 天体望遠鏡を作ろう(架台部)</p> <p>平成 29 年 7 月 23 日(日) 第 6 回 天体望遠鏡を作ろう(鏡筒部)</p> <p>平成 29 年 8 月 5 日(土) 第 7 回 夏の星座観察(観望会)</p> <p>平成 29 年 9 月 23-24 日(土-日) 第 8 回 宿泊観測(少年自然の家)</p> <p>平成 29 年 10 月 7-8 日(土-日) 第 9 回 科学フェスタ出展</p> <p>平成 29 年 10 月 28 日(土) 第 10 回 前半まとめ、発表会テーマ設定</p> <p>平成 29 年 11 月 11 日(土) 第 11 回 秋の星座観察 (プラネタリアム、観望会)</p> <p>平成 29 年 12 月 9 日(土) 第 12 回 月の写真撮影(観望会)</p> <p>平成 30 年 1 月 13 日(土) 第 13 回 冬の星座観察 (プラネタリアム、観望会)</p> <p>平成 30 年 1 月 27-28 日(土-日) 第 14 回 宿泊観測(少年自然の家)</p> <p>平成 30 年 2 月 10 日(土) 成果発表会(プラネタリアム)、修了式</p>
クラブ講座	<p>○ちば生きもの科学クラブ 2017</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市科学館、千葉市動物公園、千葉県立中央博物館の千葉市内にある 3 館園が連携し、展示・講座を実施する ・平成 29 年度のテーマは、猛禽類。講座を受講するとともに各自でテーマを設定し、調査・研究・まとめ・展示制作を行う ・小学 4 年生以上(大人も参加可能) ・募集人数:20 名(連続して参加が可能なこと)

	<ul style="list-style-type: none"> ・参加費:無料 ※但し、各館園への入館園料が必要 ※実施内容にあわせて材料実費相当の参加費を徴収する
クラブ講座	<p>○みんなの科学教室 2017</p> <p>講師は、近隣の小学校の教員の参加を計画して、地域全体での教室運営を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どきどき科学教室(小学生向けコース) 全6回(予定) 小学生向け連続講座を実施する。 ・実施場所:諸室、展示フロア、プラネタリウム等 ・各講座について、科学館担当者と講師で事前に打合せ後、実験内容や使用物品の確認等を行う。 ・講師は館内施設を無料(プラネタリウムを除く)とする ・実施内容にあわせて材料実費相当の参加費を徴収する
講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会を年間3回程度開催する ・天文講演会を年間2回開催する。参加費は無料とする ・テクノショップ出展企業が希望した場合、技術・ものづくりをテーマとした講演会を年間最大4回開催する。(出展企業が講演会を選択しない場合もあり) ・プラネタリウム、展示フロア、実験諸室、講義室にて実施し、サイエンスカフェ形式での実施も検討する ・話題性の高いノーベル賞に関連したテーマを検討する
第23回 青少年のための科学の祭典・千葉大会	<p>実行委員会・科学館内事務局担当より、千葉県内の理科教育関係者等に、実験工作ブース、サイエンスショーなどのプログラム出展を要請。親しみやすい科学教育プログラムをブース形式で一同に集めて開催する。</p> <p>[留意事項など]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アトリウムでは火気使用厳禁を徹底する <p>主 催: 青少年のための科学の祭典ー千葉大会実行委員会 (財)日本科学技術振興財団・科学技術館</p> <p>共 催: 千葉市科学館</p> <p>実施予定日: 平成29年6月10日(土)、11日(日)</p> <p>科学館担当部署: 教育普及チーム、教育アドバイザー、設備管理チーム ボランティア推進チーム</p> <p>利用場所: 諸室、展示フロア、企画展示室、他</p> <p>入館方式: 開催期間中、常設展示は無料とする。但し、プラネタリウムは有料</p> <p>予想入場者数: 3000名程度(平成28年度実績: 2368名)</p> <p>調整事項: 会場設営、利用方法等の事前打合せ</p> <p>備品等: イス、机、パネル、ステージなど(アトリウム備品)</p>
平成29年度 理科研究相談会	<p>相談コーナーを設け、夏休み理科研究に向けて個々に計画しているテーマに合わせ、研究の進め方等について相談活動を実施する。また、参考</p>

	<p>文献や過去の優秀作品(論文)を展示する 主 催: 千葉市教育委員会(千葉市理科教育センター) 共 催: 千葉市科学館 担 当: 千葉市教育委員会 学校教育部教育指導課 開催日: 平成 29 年 7 月 21 日(金)～7 月 22 日(土) 利用場所: 3 階子ども交流館アリーナ(未定) 入 館: 理科研究で来館した児童生徒は、常設展示観覧を無料とする。 ただし、保護者は有料とする 予想入場者数: 300 人程度(平成 28 年度実績:409 人) 調整事項: 作品搬入方法、会場設営等については、事前打合せの上 決定(例年の会場設営は、前日夕方に実施) 借用備品: 作品・参考書の展示用の机、パーテーション、案内板、相談 コーナー用机、椅子、パネルを利用(アトリウム備品)</p>
<p>2017 年 千葉市 科学館 ロボットコ ンテスト(仮)</p>	<p>自律型ロボットによるロボットコンテスト。 子どもたちが各々ロボットを製作し、プログラムにより自動制御する技術を 競うコンテストで、市販ロボットキットを利用することで、参加しやすく、科学 技術を身近に体験できる ・開催予定日 平成 29 年 7 月 29 日(土)、30 日(日) ・土日講座「ロボットを動かそう!」の発展講座として、1 日目にロボットプロ gramming 応用・ロボットの組み立て講座を行い(講師:岡田晃次先生/土 日講座「ロボットを動かそう」講師)、2 日目にコンテストを行う ・主催 千葉市科学館 ・参加費は無料(要入館料) ・定員は 8 チーム 16 名までとする ・講座とコンテストの参加は事前募集とする(残席があれば当日 15 分前に 受付)</p>
<p>平成 29 年度 第 60 回 千葉市立 小・中・特別支援 学校児童生徒作 品総合展覧会科 学部門</p>	<p>平成 29 年度の千葉市立小中特別支援学校児童生徒の夏休み理科研究 の優秀作品を一般に公開し、千葉市児童生徒の理科教育(科学研究)の 成果を発表する。 主 催: 千葉市教育委員会 共 催: 千葉市科学館 担 当: 千葉市教育委員会(学校教育部教育指導課) 準備日程及び開催日(予定) 作品搬入 平成 29 年 9 月 11 日(月)9:00～16:30 予備審査 9 月 12 日(火)9:00～16:30 本審査・展示 9 月 14 日(木)9:00～16:30 総合展 9 月 15 日(金)～18 日(祝月)9:30～17:00 撤去・作品搬出 9 月 19 日(火)10:00～16:30 利用場所:</p>

	<p>1階 科学館 EV 前(受付)、アトリウム【小学校】(予定) 7階 企画展示室、サイエンスアート広場、他【小学校】 8階 科学実験室(A、B)、他【中学校】(予定) ※講義室(作品審査時)</p> <p>入館方式: 事前に「入館券引換票」を各学校に配布し、参観者(児童生徒、保護者、教職員)は、1階受付で入館券と交換。常設展示を無料とする。 総合展関係(搬入・搬出、予備審査、本審査、展示等)教職員は常設展示を無料とする。 予想入場者数:5000人程度(平成28年度実績:5813人/4日間)</p> <p>調整事項: ①公開時間は9:30~17:00。ただし、受け付け時間は16:30まで 今後、教育指導課と協議して決定する ②教育指導課と作品搬入方法、会場設営の事前打合せを行う ③当日会場係人数(教員)について、教育指導課と協議する</p>
	<p>備 考: ・昨年度同様、搬入・搬出時に、駐車券 20 分券を自家用車利用の職員に科学館から提供する ・搬入、搬出時間を適切に設定し、車両の駐車場確保に留意する。(要:駐車場案内、整理人員) ・アトリウム用の机 60 台を期間中借用する アトリウム用の椅子 60 脚を期間中借用する。作品の予備審査・本審査で利用する</p>
<p>コズミックカレッジ (予定)</p>	<p>宇宙をテーマにした科学教育を通して、科学の楽しさや不思議さに触れ、科学への関心や探究意欲を喚起し、子供たちが豊かな心を育むことを目的に行う科学教育プログラムである。宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙教育センターが全国各地で開催している。</p> <p>主 催: 宇宙航空研究開発機構・千葉市科学館</p> <p>コース内容: 自分をとりまく身近な自然に親しみ、自然への関心を高め観察、実験、ものづくりなど直接体験を通して、科学的なものの見方、考え方の基礎を培う。簡単な工作や話を通して、親子で楽しみながら学ぶ。 (プログラム例) 星砂で星座絵をかたどる工作/熱気球の実験/プチロケットの実験</p> <p>開催予定日: 平成29年11月23日(祝・木)<予定></p> <p>・キッズコース、もしくはファンダメンタルコースに申し込む(申込み後、</p>

	<p>JAXA で審査が行われる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費は無料、1 階きぼーる広場で開催の場合は、入館料不要 ・教材の提供は JAXA、講師は科学館が行う
<p>第 19 回 火星ローバー コンテスト (予定)</p>	<p>予め自作した火星ローバーを持ち込み、模擬火星地表面を走行、ミッションを遂行する。競技では、無作為に選ばれたチームとコミュニケーションを取りながらミッションを行う。小中学生対象。</p> <p>【基本方針】 「千葉市内の学校・教育関係者と千葉市科学館の連携事業」として実施する。競技規定等は、実行委員会にて作成する。実行委員には学校関係者だけではなく、協力を希望するボランティア等も参画できることとする。</p> <p>主 催： 千葉市教育委員会・千葉市科学館 実施予定日： 平成 29 年 12 月 2 日(土)(仮) 科学担当部署： 教育普及グループ、教育アドバイザー、設備管理チーム 利用場所： 企画展示室、スカイガーデン、3 階アリーナ(予定) 試走会予定日： 平成 29 年 9 月 24 日(日)、平成 29 年 11 月 19 日(日) 関連講座： 試走会前に、ローバー作成講座を実施 入館方式： 選手は館内施設を無料 予想入場者数： 300 名程度 平成 28 年度実績 選手 37 チーム、見学者 297 名</p>
<p>繁忙期 GW イベント</p>	<p>繁忙期 GW の更なる集客を目的として、子ども向けのイベントを実施。科学館の認知誘導をはかるとともに、きぼーるの賑わいを創出する</p> <p>開催場所： きぼーる 1 階 きぼーる広場等 実施内容： 段ボール迷路(予定)</p>
<p>ターミナル ワークショップ祭り</p>	<p>様々な実験工作をいくつか厳選し、1 度に体験いただけるイベントを実施する。館で企画し実施しているものの PR と閑散期に実施することで、入館者増とリピーター、新たな来館者獲得を図る</p> <p>実施予定日：平成 30 年 2 月 24 日(土)、25 日(日) 場所：企画展示室 ・必要に応じて参加費を徴収する</p>
<p>トークイベント</p>	<p>千葉キッズサイエンストークイベントを試験的に実施する</p>
<p>大人の工作教室 (仮)</p>	<p>教室での体験を家庭、地域でも実演できるように、工作キットを 2 組用意し 1 組を持ち帰り用とする。館外での実演を通して科学普及の輪を広げていく。</p> <p>対象：原則として高校生以上 実施予定日：毎月第 1 木曜(予定)</p>

	参加者数:15~20名/1教室 年間40回程度開催する
--	--------------------------------

イ 学校支援業務

【学習プログラムの用意】

学習項目	学習の概要
ワークシート学習	小・中学生を対象のワークシートの作成。それを活用した学習の実施。
天文学習 (プラネタリウム)	教育アドバイザー、先生方の意見をもとに投影プログラムを作成準備し、児童・生徒の学習進捗、興味・関心に対応実施する。千葉市内の小・中学校は各学校スカイラインを用いて学習投影を実施する
実験工作学習	利用前月10日までに申込みをした学校団体に向け、事前に選択して必ず体験できるプログラムを実施する
理科学習キット	中学校の理科授業をサポートする理科学習キットの貸出を継続して行う。授業の教材として活用して、より学校教育現場で利用しやすい学習キットとなるよう改善していく
職場体験	対象：市内中学校に通う児童生徒(市外については都度協議) プログラム内容： 科学館内の主な業務を体験する。受付業務/フロア業務/ボランティア業務(ターミナルワークショップの実施を含む) 日数：1~5日(学校の要望により対応)

【来館促進】

業務項目	業務の概要
事前予約	平成29年度の学校団体予約開始時期については以下のとおり。 千葉市内小・中・高・特別支援学校、幼稚園・保育園は平成29年2月17日(金)より開始する 千葉市外の学校団体については、平成29年3月1日(水)より開始する
引率者マニュアル等配布資料の作成	団体利用のてびきをHPからダウンロードする。打合せの際には授業内容の要望を確認し、できるだけ要望に沿ったプランになるよう、学年に応じた動きにも留意しながら柔軟に提案する
学校説明会の実施	学校担当者への施設利用説明会を科学館にて実施する。利用例、予約方法、来館までの流れ等の説明、プラネタリウムの紹介などを行う
事前学習キットの活用	団体利用のてびき、HPでの告知の他、教職員の研修会等でも内容や使用方法を紹介し、利用促進を図る
県内遠隔地へのアピール	県理研、校長会などに出向き、科学館を利用した学習活動の働きかけを行う
HPでの案内	施設利用案内や、利用申し込み書類、ワークシートなどをHP上でダウンロードする
送迎バスの借り上	市内の交通が不便な学校の利用を安易にすることを目的に、バスを借上

げ	げる。対象となる学校は、公共交通機関を使用した際、学校から科学館までの所要時間が1時間30分を越える千葉市立の学校を基本とする平成29年度40台(予定)とする
代表者への聞き取り	予約の打合せ時や滞在時に要望の聞き取りをし、より利用しやすい施設となるよう改善していく。
下見時での説明・案内の実施	下見時に教育アドバイザーが教員に科学館の学習利用について説明、質問等に対応する。〔主に小学校を対象に〕

ウ 研修支援業務

【平成29年度教育委員会関連支援事業】

事業名	平成29年度児童天文学習会(予定)
主催	千葉市教育委員会
共催	千葉市科学館
担当	千葉市教育委員会(学校教育部教育指導課)指導主事(未定)
実施予定日	8月24日、25日
利用場所	科学館7階プラネタリウム、他
内容	プラネタリウム学習投影及び常設展示見学 理科教育センター行事として、市内小学校児童への科学啓発を行う。小学校の学習指導要領で扱う内容を中心に、特別番組として投影することにより、学習会の価値化を図る
入館方式(減免など)	参加児童及び引率教員の利用料を無料とする
募集人数	600人程度
調整事項	投影時間(午前中)と投影内容については科学館と協議の上決定する

【教育委員会関連支援事業】

事業名	平成29年度 千葉県及び千葉市社会体験派遣研修(依頼があれば実施)
主催	千葉県・千葉市教育委員会(千葉県・千葉市教育センター)
代表者(事務局)	千葉県・千葉市教育センター教職員研修部門 未定
実施予定日	未定
科学館担当部署	教育アドバイザー、教育普及チーム
利用場所	展示フロア全体
内容	科学館職員との協働体験、他
入館方式(減免等)	研修参加者は館内施設を無料 研修資料提示
研修人数	事務局と事前打合せ
調整事項	事務局と事前打合せ

備品等	事務局との打合わせにより準備
-----	----------------

事業名	千葉県教育センター専門研修「科学館講座」
主催	千葉県教育委員会
代表者(事務局)	千葉県教育センター教職員研修部門指導主事
実施予定日	8月
科学館担当部署	館長、教育アドバイザー、企画戦略チーム
利用場所	探究実験室他
内容	科学館備品を利用した研修及び電顕等の活用研修
入館方式 (減免等)	研修参加者は館内施設を無料 研修資料提示
研修人数	市内小中学校理科教員20名
調整事項	事務局と事前打合せ
備品等	事務局との打合わせにより準備

エ アウトリーチ活動

【基本方針】

千葉市の科学教育の拠点施設として、市内外の生涯学習施設および教育施設より事業参加の要請があった場合は下記要領で可能な限り実施する。将来的には、各施設の職員や地域の市民ボランティアが、独自に科学系イベントを実施できるような体制作りを目指し、研修会実施も調整・検討する

【地域連携事業】

事業名	生涯学習施設連携事業
主催	公民館、図書館、生涯学習センターなど、市内各施設
協力	千葉県科学館
実施予定日	各施設と協議の上決定
科学館担当部署	利用促進担当、教育アドバイザー
実施場所	公民館、図書館、生涯学習センターなど、各種生涯学習施設のうち実施希望のあった施設
内容	<p>科学館の広報活動の一環として実施する。</p> <p>また、地域の拠点である各種生涯学習施設との協力関係を構築し、将来的には各施設の職員や地域の市民ボランティアが、独自に科学系イベントを実施できるような体制作りを目指す。</p> <p>[実施手順] ※要調整</p> <p>①生涯学習振興課より各種施設へ申込書式を配布</p>

	<p>②依頼元施設責任者より生涯学習振興課へ専用申込書式を提出 ③生涯学習振興課にて事業内容を精査 ④生涯学習振興課と科学館で実施の可否を判断 ⑤依頼元担当と科学館担当で実施内容を調整</p> <p>・無償にて実施する ・実施内容は、「事前申込定員制の科学教室」、「当日自由参加の工作教室」より選択</p>
調整事項	<p>・イベントの募集に関する広報、事務手続きは各施設にて行う ・日時、内容などの詳細は、依頼元担当と科学館担当が都度打合せを行い調整する。</p>
備品等	実施内容毎に担当と調整

事業名	シニアを対象とした科学体験活動
主催	いきいきセンター、いきいきプラザなど、市内各施設
協力	千葉市科学館
実施予定日	各施設と協議の上決定
科学館担当部署	利用促進担当、教育アドバイザー
実施場所	いきいきセンター、いきいきプラザなどのうち、実施希望のあった施設
内容	<p>科学館の広報活動の一環として実施する。 シニア層に科学館を紹介し、地域の団体での来館や長期休暇中の帰省家族との来館を促進する。</p> <p>[実施手順] ※要調整 ①生涯学習振興課より、各種施設へ申込書式を配布 ②依頼元施設責任者より生涯学習振興課へ専用申込書式を提出 ③生涯学習振興課にて事業内容を精査 ④生涯学習振興課と科学館で実施の可否を判断 ⑤依頼元担当と科学館担当で実施内容を調整</p> <p>・無償にて実施する ・実施内容は、「事前申込定員制の科学教室」とする</p>
調整事項	<p>・イベントの募集に関する広報、事務手続きは各施設にて行う ・日時、内容などの詳細は、依頼元担当と科学館担当が都度打合せを行い調整する</p>
備品等	実施内容毎に担当と調整

事業名	小学校放課後子ども教室 出張ワークショップ
主催	各学校の放課後子ども教室

協力	千葉市科学館
実施予定日	各教室と協議の上決定
科学館担当部署	利用促進担当、教育アドバイザー
実施場所	実施希望のあった施設
内容	<p>科学に興味を持ち楽しむことを主目的とする。より高度な内容にも興味関心を向けるきっかけ作りをし、科学館の来館へと繋げる</p> <p>[実施手順] ※要調整</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習振興課より各種施設へ申込書式を配布 ②依頼元施設責任者より生涯学習振興課へ専用申込書式を提出 ③生涯学習振興課にて事業内容を精査 ④生涯学習振興課と科学館で実施の可否を判断 ⑤依頼元担当と科学館担当で実施内容を調整 <p>・無償にて実施する</p>
調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの募集に関する広報、事務手続きは各施設にて行う ・日時、内容などの詳細は、依頼元担当と科学館担当が都度打合せを行い調整する
備品等	実施内容毎に担当と調整

事業名	市内外各団体実施イベントでの出張ワークショップ
主催	各団体
協力	千葉市科学館
実施予定日	適時
科学館担当部署	利用促進担当、教育アドバイザー
実施場所	各団体と協議の上決定
内容	<p>科学館の広報活動の一環として実施する ワークショップ参加者以外にも科学館広報物を配布するなど PR に努める。</p> <p>[実施手順] ※要調整</p> <ol style="list-style-type: none"> ①依頼元担当者より科学館へ事業内容の説明と依頼 ②科学館、生涯学習振興課で実施の可否を協議 ③依頼元担当と科学館担当で実施内容を調整 <p>・実施内容は、「事前申込定員制の科学教室」、「当日自由参加の工作教室」より選択</p> <p>・平成 28 年度実施例：子ども交歓大会 主催：千葉市子ども育成連絡会</p>
調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの募集に関する広報事務手続きは各施設にて行う ・消耗品費は各団体負担とする ・内容などの詳細は、依頼元担当と科学館担当が都度打合せを行い調整する
備品等	実施内容毎に担当と調整

事業名	科学館ボランティアを対象とする館外活動研修会(予定)
主催	千葉市科学館
実施予定日	適時
科学館担当部署	教育アドバイザー・教育普及チーム・天文プラネタリウムチーム ボランティア活動推進チーム・利用促進担当
実施場所	千葉市科学館
内容	地域連携事業等の館外活動に必要な事前情報や、実施プログラムの研修を実施。科学館ボランティアが独自に館外活動を行える下地作りを目指す。 ステップ例 ①職員の館外活動を補助する ②研修受講 ③館外活動をメインで担当(職員の補助付き) ④職員の補助なしで館外活動を担当 ⑤地域の各施設に個人として紹介
予想入場者数	最大 40 名程度
調整事項	千葉市教育委員会と協議の上実施する

事業名	社会福祉協議会「敬老会」
主催	千葉市社会福祉協議会地区部会
実施予定日	9月敬老の日前後
科学館担当部署	教育アドバイザー・利用促進担当
実施場所	敬老会実施会場
内容	科学館の広報活動の一環として実施する 敬老会参加者以外にも科学館広報物を配布するなど PR に努める。 [実施手順] ※要調整 ①依頼元施設責任者より生涯学習振興課へ申込み ③生涯学習振興課にて事業内容を精査 ④生涯学習振興課と科学館で実施の可否を判断 ⑤依頼元担当と科学館担当で実施内容を調整 ・無償にて実施する
予想入場者数	最大 600 名程度
調整事項	会場担当者と協議の上実施する

オ その他

【千葉大学連携事業】

事業名	千葉大学教育学部4年生教育実習事後研修(予定)
-----	-------------------------

主催	国立大学法人 千葉大学
代表者(事務局)	千葉大学教育学部
実施予定日	未定
科学館担当部署	事務局、教育普及チーム、教育アドバイザー
利用場所	諸室、常設展示フロア、プラネタリウム
内容	社会教育施設としての科学館・博物館の役割とその活動の実際を知り、学校教育に活用可能な知識を得る
入館方式(減免等)	研修参加者は館内施設無料
予想入場者数	各日 60 名程度
調整事項	事務局と入館方法等の事前打合せを行う
備品等	事務局との打合せにより準備

事業名	サイエンスキャンプ (千葉大学連携、協力要請があれば実施)
主催	国立大学法人 千葉大学
協力	千葉市科学館
実施予定日	平成 29 年 8 月 3 日(木)～5 日(土) (千葉市科学館見学日いずれかの 1 日のみ)
科学館担当部署	教育普及グループ、教育アドバイザー、設備管理チーム
利用場所	諸室、展示フロア、プラネタリウム(詳細未定)
内容	講義により生命活動の基本を学び、実験講座により DNA および糖質の解析の基礎を学ぶ。4日間のプログラムの中で、千葉市科学館や県立博物館、先進科学センターの研究室などを訪問し、様々な視点で生命や科学に触れる機会を作る。 千葉市科学館ではマクロの視点から生命や科学に触れることを期待。 協力内容: ①会場(実験室)の手配 ②参加者のプラネタリウム観覧料、常設展示入館料金の減免 ③各パンフレットへのクレジット記載(協力:千葉市科学館) ④館長の講話 ⑤電子顕微鏡の見学
入館方式(減免等)	講師・参加者は館内施設無料(プラネタリウムを含む)
調整事項	参加者募集、スケジュール調整等は千葉大学が行う 科学館での実施内容は担当者と事前打合せを行って決定する
備品等	今後調整

【外部機関との連携事業】

事業名	東邦大学「教職実践演習」(未定)
主催	東邦大学

代表者(事務局)	東邦大学 理学部教員養成課程 板橋 文夫 教授
実施予定日	未定
科学館担当部署	館長、教育普及チーム、教育アドバイザー
利用場所	諸室、常設展示フロア、プラネタリウム
内容	①千葉市科学館にて座学 ②千葉市科学館にて展示解説体験 ※①と②は同じ日に実施
入館方式(減免等)	研修参加者は館内施設を無料
予想入場者数	20名程度
調整事項	事務局と入館方法等の事前打合せを行う
備品等	今後調整

【千葉市生涯学習センター連携事業】

事業名	放課後子ども教室コーディネーター等研修会(予定)
主催	千葉市生涯学習センター
実施予定日	平成 29 年 5 月～11 月
科学館担当部署	教育アドバイザー・教育普及・ボランティア推進
実施場所	千葉市生涯学習センター
内容	放課後子ども教室コーディネーターまたは指導員・協力員を対象にワークショップなど科学教育プログラムの企画・立案・実施方法を指導
予想入場者数	未定
調整事項	千葉市生涯学習センターより依頼があれば実施 詳細は平成 29 年度新担当者が決定しだい通知

【千葉市主催事業】

事業名	青少年の日フェスタ(予定)
主催	千葉市こども未来局こども未来部健全育成課
実施予定日	未定
科学館担当部署	利用促進担当
実施場所	千葉市生涯学習センター
内容	小学校高学年対象の実験・工作教室を実施
予想入場者数	未定 平成 28 年実績:人工イクラを作ろう
調整事項	詳細は平成 28 年度新担当者が決定しだい通知

【千葉市生涯学習センター連携事業】

事業名	子どもチャレンジ教室(予定)
主催	千葉市生涯学習センター

実施予定日	未定
科学館担当部署	利用促進担当
実施場所	千葉県生涯学習センター
内容	科学館ボランティアによる簡単な科学工作ワークショップ実施を中心とした科学館体験コーナーを出展
予想入場者数	200人
調整事項	詳細は平成29年度新担当者が決定しだい通知

【千葉県生涯学習センター連携事業】

事業名	まなびフェスタ(予定)
主催	千葉県生涯学習センター
実施予定日	未定
科学館担当部署	ボランティア推進
実施場所	千葉県生涯学習センター
内容	科学館ボランティアによる簡単な科学工作ワークショップ実施を中心とした科学館体験コーナーを出展
予想入場者数	200人
調整事項	詳細は平成29年度新担当者が決定しだい通知

【ベイサイドジャズ2017千葉協賛事業】

事業名	スターダストジャズ
主催	千葉県科学館
実施予定日	平成29年9月第1土曜日(予定)
科学館担当部署	天文プラネタリウムチーム
実施場所	プラネタリウム【定員】200人
内容	ジャズミュージシャンによる生演奏を聞きながら星空を楽しむプラネタリウム番組の投影を実施する(2回程度) 料 金:プラネタリウム通常料金(未就学児は入場不可)
予想入場者数	400人(2回公演)
調整事項	・日程等は5月頃に千葉県文化振興財団ベイサイドジャズ千葉担当者からの協力要請・連絡を受けたのち調整 ・出演者はベイサイドジャズ千葉実行委員会が指定

【平成29年度4月以降に調整が行われる事業】

- ・ 千葉ロッテマリーンズ市民応援「千葉市スペシャルデー」 主催:千葉県公園管理課

(4)プラネタリウム事業計画

ア プラネタリウム機器等管理業務

「3 維持管理業務 (1)保守管理業務 ウ」に記載

イ 投影業務

【基本方針】

学校団体および一般利用者の利用しやすさを考慮した適切な時間帯を割り当てられるよう調整を行い、且つ、天文・科学教育普及に適した話題を幅広く提供しながら様々なニーズに応えるスケジュール(年間・月間・日間)を作成し、投影を行う。尚、投影スケジュール(投影回数、投影開始・終了時間)は平成28年度のもの踏襲する。

■ 天文学習期間の設定

学校授業で天文学習が行われ学校団体のプラネタリウム利用が殺到する9、10、11月を「天文学習期間」に設定し、学校利用を受け入れる体制を整備。一般投影枠(15時)に学習利用の希望があった場合には学習投影を実施する。なお、一般団体予約に配慮し、申込み締切は7月末日とする

■ 一般投影業務

投影期間	タイトル	内容
通年	学習番組 「ほしぞら学校」	市内在住・在学の児童生徒が「ふれあいパスポート」を利用できる土曜日午前中に投影を行う。興味・関心を高め、意欲的に学びリピーターやヘビーユーザーにも対応する。季節の星座の観察学習のため、星座早見盤を活用した投影を季節ごと(春・夏・秋・冬)に行う。
通年	一般番組 「星空散歩」等 番組	季節の星座や見ごろの天文現象などを紹介する。45分生解説投影(「星空散歩」など)や30分程度の番組と生解説をあわせた投影など、年4本程度の作品を順次入れ替えて提供する。人気が高い「星空散歩」限定バージョンも継続して適宜実施する。また、アニメ番組を年1本程度上映する。 <予定> 映像番組: 「オーロラの調べ」、「クジラが星に還る海」 限定版「星空散歩」:南の島、七夕、中秋、クリスマス
通年	キッズアワー	幼児も楽しみながら星や星座を見つけ、プラネタリウムに親しんでもらう番組(「やじるしくんのいたずら(春・夏・秋・冬)」)などを投影する。

		(株)東急コミュニティーが保有するオリジナル番組「まくまくんの星空大冒険」などを適宜上映する。
通年	リフレッシュタイム	昼休み時間のひとときに満天の星と音楽をゆっくりと楽しむ投影。(投影時間:約 20 分、料金:300 円、大人向け)
随時	スペシャル番組	七夕やクリスマスなど歳時記や天文現象に時期を合わせて特別なテーマで投影する。また、プラネタリウム空間を活用した様々な趣向(講演会やコンサートなど)や新たなサイエンスコミュニケーションの手法を取り入れた投影にも取り組む。教育普及グループが行う天文分野に限らない科学全般を扱う内容や NPO 法人(ちばサイエンスの会)等による企画・制作の投影も行う(年3回程度) <予定> 「チャレンジ! アストロ Q(ゴールデンウィーク、夏休み)」、市民の日)、勤労感謝の日「熟睡プラ寝たリウム」他

■ 学習投影業務

投影期間	タイトル	内容
通年	小学校 理科学習 中学校 理科学習	学習指導要領に準じた基本の投影プログラムから、児童・生徒の興味・理解度にあわせたプログラムを選択できるようにし、投影を実施する ○小学校対応例 「夏の星座と月の観察」、「冬の星座と月の動き」、「星のならばとその動き」「月の満ち欠け」など ○中学校対応例 「日周運動と自転」、「季節変化と公転」、「地球環境と宇宙」など
通年	小学校 その他	星空や宇宙・天文への興味・関心を高め、理解を深めるとともに、理科全般の学習項目に関連付ける投影を実施する ○対応例 「星空を探る」「宇宙しつもん箱」「星になったチロ」など
通年	幼児団体	幼稚園・保育園などの幼児団体を対象に、星空に親しみ、プラネタリウムを楽しく体験することができるプログラムを投影する
通年	その他学校団体	学習を目的とする団体(高校、特別支援学校など)の要望に応じ、星に親しみ、宇宙・天文への興味・関心が高まるプログラムを投影する

ウ 投影プログラム作成業務

【基本方針】

- ・プラネタリウム投影(学習・一般・特別等)およびその他のドーム利用における投影プログラムの作成をする
- ・天文現象や歳時などの宇宙天文分野の話題のほか、館催事にあわせた内容や科学全般に興味広がる「科学の『旬』」の話題を、ドーム空間を活かして展開するような番組を各チームと連携し企画・制作する
- ・地域・学校・外部機関(天文台・科学館・大学・研究機関等)との連携、ボランティアの活動ステージを生み出すプログラム制作体制の構築に取り組む

ジャンル	タイトル数	プログラムの内容
学習番組 「ほしぞら学校」 作成	12	小学校高学年以上を対象とし、時季毎にテーマを設定し企画・制作を行う。一年間通じて、身近なところから広大な宇宙へと視点を移し、科学の視点で星空を自ら楽しめるようになる話題を提供し、天文分野への興味関心の高いリピーターやヘビーユーザーにも対応する。また、各所との連携により幅広い視点で宇宙・天文分野を捉えられるような番組制作に取り組む
一般番組作成	適宜	<p>■投影素材制作・解説資料準備</p> <p>季節の星座や見ごろの惑星などを随時更新する。話題性のある天文トピックスやニュースなど情報を収集し、投影素材(映像・音声など)を作成する。また、番組や利用者にあわせたカスタマイズも都度行う</p> <p>■番組装填</p> <p>映像準備(画質調整、ドームマスタースライスなど)、音響調整、スクリプト作成し、番組投影の準備全般を行う。</p> <p><予定></p> <p>「オーロラの調べ」、「クジラが星に還る海」、「ポラリス」</p> <p>■オリジナル番組制作</p> <p>宇宙天文分野から科学全般に興味を広げるような「科学の『旬』」の話題を提供する。ドーム空間を活かした演示や新たなサイエンスコミュニケーションの手法を取り入れたプログラムの制作・投影も教育普及グループ全体で取り組む。地域・学校・外部機関(天文台・科学館・大学・研究機関等)との連携、ボランティアの活動ステージを生み出すプログラム制作体制の構築に取り組む</p> <p><例></p> <p>企画展・特別展連動番組、外部機関との連携企画、ボランティアによるワークショップとの組み合わせ など</p>
学習投影プログラム作成	適宜	<p>■天文学習教材制作</p> <p>学習投影で用いる教材を制作する</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内・県内小中学校の校庭風景の取材・撮影 ・学校スカイラインを活用した学習投影の実施 ・太陽の動き(高度・方位)の変化(1年分) ・月位相変化(1ヶ月分) など

エ 天文普及業務

【基本方針】

- ・ 市民の天文教育・学習の場を創出し、地域の天文普及の拠点としての機能を発揮する
- ・ 天文普及活動の発展のために、学校・地域・外部機関(天文台・科学館・大学・研究機関等)との連携を推進し、さらには主体的に学ぶボランティアの活動ステージを生み出す体制の構築に取り組む

■ 市民の天文教育・学習機会の創出

期間	タイトル	内容
随時	天文講演会	天文をテーマにした講演会を年 2 回行う。原則として無料公開、プラネタリウムを会場とする。テーマ設定においては、プラネタリウム投影など館運営で把握した市民の興味やニーズを考慮し、ニュース性のある天文現象・宇宙開発の話題や最新天文学の動向など市民と宇宙・天文をつなぐものを設定する。近隣の大学・研究機関・天文台などに講師派遣を依頼し、先進的・今日的なテーマで取り組む ※教育普及事業「ア 講座等運營業務」の「講演会」として行う
随時	天文講座	天文をテーマにした講座を年 4 回程度行う。近隣の大学・研究機関・天文台などに講師派遣を依頼し、先進的・今日的なテーマを設定する
随時 (日没時間・観察可能な天体を考慮)	星空観察会 (きぼーる)	市民を対象とし、日没後、科学館周辺(きぼーる駐車場屋上など)にて天体望遠鏡を用いた星空観察と解説を行う。月齢や天文現象を考慮し年 3 回実施する。 実施日<予定> 8月28日(月)伝統的七夕、10月4日(水)中秋、11月1日(水)十三夜
随時	プラネタリウムワークショップ	プラネタリウム空間を活用し、天文分野に限定しないテーマで活動を展開する。地域や地域住民との連携を十分意識し、またプラネタリウム投影や星空観望会他、館内イベントと連動させた内容など行う <例> 企画展・特別展連動番組、外部機関との連携企画、ボランティアによるワークショップとの組み合わせ など

■ 学校との連携

期間	タイトル	内容
随時 (日没時間・観察可能な天体を考慮し、11月～3月を予定)	星空観察会 (学校)	希望する市内小中学校を対象とし、望遠鏡・双眼鏡等の観測機材を持参し、屋外(校庭・屋上など)での星空観察と解説を行う。月齢や天文現象を考慮し、日程を決め実施。4月に日程を発表、市内小中学校へ告知する。応募校多数の場合は先着順で訪問先を決定する。観察会実施にあたり、学校の費用負担は無しとする
随時	リモート天文台	リモート天文台の危機状況を把握し、現状に合わせた活動を図る。(遠隔操作補助、天文学習期間中の映像配信等)

■ 外部との連携 天文・科学教育普及のための各種イベントをサポートする。

期間	タイトル	内容
5月～ 12月	宇宙の日記念 「全国小中学生作文絵画コンテスト」	宇宙をテーマにした小・中学生の絵画・作文を科学館で募集(期間:5~7月末)し、審査を行い(8月中)、表彰式10月15日予定)を実施。また入選作品を中心に、応募作品を科学館にて掲出(時期:10月13日~11月12日、場所:企画展示室、サイエンスアート広場、プラネタリウム ※予定) 入賞作品集を作成、入賞者に配布する
7月7日前後	「全国同時七夕講演会」	日本天文学会主催、天文教育普及研究会共催 期間中に講演会などを実施する
9月～ 10月	「国際科学映像祭」	国際科学映像祭実行委員会、国立天文台共催 毎年9月を中心とした2ヶ月間程度、スタンプラリー・番組上映などを行う
随時	その他	伝統的七夕ライトダウンキャンペーン(毎年旧暦七夕前後。平成29年は8月9日)、日本プラ寝たリウム学会主催「熟睡プラ寝たリウム」(6月19日父の日、11月23日勤労感謝の日などに開催)など 検討

■ 職員・ボランティアの啓蒙

期間	タイトル	内容
随時	天文普及活動研修	科学館職員として天文普及・教育(プラネタリウム投影や星空観察会など)への理解を深め、館内での連続的な

		活動につながるよう、サイエンスコミュニケーションの実践を含めたレクチャー等を行う。中学生職場体験・教員社会体験、学芸員実習・教育実習生・インターン、ボランティア・教育普及グループ職員などを対象として想定 <例> 星座早見盤の使い方、4次元デジタル地球儀ダジックアース活用など
--	--	--

(5) ボランティア事業計画

ア 科学館ボランティア募集・育成業務

【基本方針】

- ・ 館運営のなかで、ボランティアの活動内容・参画場面を拡大・多様化・発展的にし、より充実感をもった活動を頻度高く実施できる体制とする
- ・ ボランティア活動に興味はあるが、なかなか最初の一步が踏み出せないでいる市民がはじめてボランティア活動に携わる施設として科学館を選択いただけるような募集・研修を計画実施する。
(具体的対象として 20代～40代の現役会社員、高校生など想定)
- ・ 科学館でのボランティア活動は、市民の生涯学習活動の一環であるとの認識を館職員全員が共有し施設設置理念実現のため館一丸となってボランティア活動を多方面から支援する
- ・ ボランティア会設立の準備を進める。

【募集業務】

平成 29 年度目標: ボランティア活動によって、ボランティア活動者がより健康で文化的な日々を過ごせるような活動支援をするとともに、来館者にとってよりよい利用支援ができる存在としてボランティア活動内容の質を高めていく。

目的	内容
活動内容の周知徹底	○科学館ホームページの活用 科学館ボランティアに関するサイトを設け、日々の活動を紹介 常時、募集告知を掲載する
	○館内に展示コーナーの作成 館内にボランティアについての紹介コーナー展示を設置、日々の活動を紹介。常時、募集告知を掲載する
	○各種メディアの積極的活用 市政だよりや無料媒体に出稿しボランティア情報に触れる機会を増加する

	<p>○科学館外での活動を通じてのボランティア参加呼びかけ 科学館外でのワークショップ実施の際に、科学館ボランティアが実施していることをわかりやすく明示し、ワークショップに参加した市民に対し千葉市科学館ボランティアへの参加を広報する役割も強化する</p>
	<p>○ボランティア活動説明会の実施 上記情報に触れ、興味と関心を持たれた市民を対象に、活動内容の説明会を実施(事前予約制 参加者の希望にあわせ随時実施)</p>
活動に参加しやすい環境づくり	<p>○新たな属性のボランティア層の開拓 現在の属性の主流である、60歳代の男性に加え、さまざまな年代・ライフステージなどの各種属性に合わせたボランティア活動の告知や活動内容のコーディネートを行う ・高校生、社会人ボランティアの活動増加</p>
	<p>○体験機会の創出 ・ボランティア活動実施の際に来館者より良い関わりが持てるような機会や教育プログラムを積極的に設ける。(展示交流などの機会増加) ・ボランティアが希望する科学館での活動内容は、教育普及、広報、接遇など多岐にわたる。ボランティア一人一人が、希望する内容の活動ができるよう、参画できる活動内容を整理分類し分かりやすい形にした情報をボランティアに積極的に配信する ・小中学生を対象に、ボランティアを紹介し体験する機会を設ける。将来を担う世代である小・中学生を対象に、ボランティア活動の体験を通じた成長機会となる様、長期休業中を中心に実施する。毎回多数の応募があるため、できるだけ受入可能となるように運用方法を検討する</p>

【育成業務】

種別	内容
新規ボランティア研修	<p>活動を始める前に実施する「新規ボランティア研修」では、千葉市科学館での活動が安全に安心して行えるように基礎的内容のみ厳選して実施する。(全3回) 第1回目 千葉市科学館紹介・千葉市科学館ボランティアとは？ ボランティア活動内容説明・緊急時の対応 第2回目 安全な活動のために「危険予測トレーニング」 ターミナルワークショップ・科学工作体験の説明と練習 第3回目 誰もが楽しめる科学館に向けて ボランティア活動に向けての最終確認</p>
ボランティアステップアップ研修	<p>○館職員との勉強会 館長をはじめとする館内職員との勉強会 常設展示に関する勉強会を中心に定期的実施する</p>

	<p>○みんなで勉強会(日常版) ボランティア自身が話題提供者となる勉強会を月に2回以上実施 (平成28年度実績) ・木工工作・航空講座 など</p>
	<p>○館外視察研修 活動プログラムの参考とするため市内外の施設に視察研修を行う (平成28年度実績) JAL整備工場メンテナンスセンター(成田市)・JAMSTEC(横須賀市)など</p>
	<p>○活動内容に応じた各種育成研修の実施 ・ワークショップターミナルでのワークショップ研修 ・展示向けワークショップでの実施研修 ・プラスサイエンス研修 ・プラネタリウム内での活動に向けた研修 ・観望会実施研修(望遠鏡の取扱い方など) ・総合受付実施研修 ・防災訓練など 実施は、活動希望者と担当部門の調整がつき次第、都度実施。</p> <p>・企画展関連研修 展示理解を深めるとともに、企画展での活動の幅を広げることを目的として、企画展開催前に展示内容と関連した研修を行う</p>

イ 科学館ボランティア活動支援業務

- ・ ボランティアが企画立案に参画する機会が増えるように企画立案・事業実施活動支援を行う
- ・ ボランティア活動者がより充実した活動を行えるように、定期的にボランティア一人ひとりより活動希望を聞きコーディネートを行う
- ・ 毎年度1回以上全ボランティアを対象に活動内容についての面談を行う。各ボランティアとボランティア推進担当者で活動についての意見交換を行い、それぞれの希望に合った活動について再確認を行う
- ・ 千葉県科学館で活動する、ボランティア同士の情報交換・意見交換の場を設け、ボランティア同士の親睦も深める取り組みを行う
- ・ 千葉県内外の教育施設でのボランティア制度や活動について、当館ボランティア推進担当職員と、各施設のボランティア担当職員との交流や意見交換の機会を持ち、各施設ボランティア活動者へフィードバックできる情報提供や、相互の館園で共通する研修(接遇など)を合同で実施予定
(交流予定施設)千葉県動物公園など
- ・ インターン生の受入
千葉県内の高校生、市立養護学校や千葉県立千葉特別支援学校の高等部生徒をボランティア推進チームにてインターンとして受入を行なう。また、ボランティアコーディネーターや市民参画事業にかかわる仕事を将来的に考えている大学生もボランティア推進チームでのインターン受入を検討する

【ボランティア月間】

冬期期間に「ボランティア月間」を設け、次の事業を中心に実施を行う

- ・ サイエンスアート広場でのボランティア活動の紹介展示
- ・ 小中学生ボランティアの紹介
- ・ ボランティアによる企画講座の実施

ボランティア月間では、上記のような各種イベント・展示を通して、一人ひとりのボランティアが「主役」となれるような好機とする。また「ボランティア月間」のPRチラシを作成し、ボランティアが実施しているイベントであることを広くPRする

【化学月間 2017】

千葉市科学館ボランティアのネットワークを活かし近隣化学系企業との連携を深めた内容で講演会・化学実験を前年度から引き続き実施する

(6) その他事業計画

ア 千葉市科学フェスタ

平成 22 年度より実施してきた(独)科学技術振興機構支援事業「ネットワーク形成先進的 science 館連携型」事業を継承。市の「科学都市戦略」推進事業の一環として、事業を実施する

【千葉市科学フェスタ メインイベント・サテライトイベント】

事業名	千葉市科学フェスタ
主催	千葉市・千葉市教育委員会・千葉市科学館
実施予定日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
科学館担当部署	館全体の事業として各部署共同で行なう
実施場所(予定)	①メインイベント(開幕式・閉幕式を含む): きぼーる ②サテライトイベント: 市内外各所
内容	①メインイベント ・千葉市科学フェスタ参画団体のネットワーク形成 参画した団体の市民に向けた個々の努力の大切さとともに、団体が横につながって形成されるネットワークが、将来にわたって「科学都市ちば」を支えるもっとも大切なインフラの一つになる。科学フェスタの実施を通して、隣を良く知り、信頼関係にもとづいたつながり「市民をかこむ科学フォーラム」の形成を目指す。 ・開幕式 千葉市科学都市戦略により創造する「科学都市ちば」の創造のため、千

	<p>葉市科学フェスタ2017メインイベントに参画、ご協力いただけるよう呼びかけ、開幕宣言を行う。</p> <p>・メインイベント</p> <p>きぼーる 1 階「きぼーる広場」や千葉市子ども交流館アリーナ、千葉市科学館、千葉市ビジネス支援センターなどを会場として、教育関係者、大学等教育研究機関、企業、市民団体に広く参画を促して、ブース出展形式等のイベントを実施する。さらに、外部専門協力者の支援を受けて、市民が触れる機会の少ない実験観測機器を使用した体験ブース、企業の活躍の一端に触れる展示ブース、大学研究者や企業研究者を招いてのサイエンスカフェや講演会、市民や子どもたちの発表会や作品展などを実施する。</p> <p>・閉幕式</p> <p>千葉市科学フェスタ2017へ参加いただいた市民へのお礼をし、科学都市戦略そして千葉市科学フェスタ2018への理解、参加を求める</p> <p>②サテライトイベント(冠事業)</p> <p>千葉市内あるいは近隣都市で活動する関係機関またはNPO法人等団体などが、公民館・生涯学習施設・大学などの市内外各所で開催する科学・技術に関するイベントを実施する</p> <p>市内外の様々な会場で科学・技術関連事業が多数展開されることで、日常生活により密着したイベント展開が期待される</p> <p>※サテライトイベント 平成29年4月1日～平成30年3月31日</p> <p>※千葉市科学フェスタ月間 平成29年10月</p>
調整事項	平成29年度の実施枠組みについては市との協議により決定

イ つながりプロジェクト

平成28年度より、国立研究開発法人科学技術振興機構と千葉市科学館が協定を結び実施している「Picture Happiness on Earth 第2フェーズ」について、継続して実施する。

【つながりプロジェクト「Picture Happiness on Earth 第2フェーズ」】

事業名	Picture Happiness on Earth 第2フェーズ
主催	千葉市・千葉市教育委員会・千葉市科学館
実施予定日	平成28年11月～平成29年5月
科学館担当部署	<p>統括責任者:館長</p> <p>実施主担当:企画戦略チーム</p> <p>事務連絡担当:総務庶務</p> <p>経理管理責任者:事務局長</p> <p>経理管理担当:総務庶務</p>
実施場所(予)	各種ワークショップ:千葉市科学館及び千葉県内各高等学校

定)	
内容	<p>・つながりプロジェクトとは 日本の国内外の研究者やアーティストとのコラボレーションを通じて地球に関する科学情報を収集し、それを感性に届く表現で視覚化して伝える活動を行う。プロジェクトのミッションは、世界中の人々と共に、地球や私たち人類自身への知識を深めること、今日の地球を次世代へつないでいくために何をすべきか考えること、未来のビジョンを描くことである。</p> <p>・Picture Happiness on Earth の概要 アジア太平洋知育の中高生と、日本の中高生が日本科学未来館の常設展示「Geo-Cosmos」に上映する「幸せコンテンツ」を作ることを協同でつくりあげるプログラム。本プログラムの第2フェーズでは、上映作品のシナリオ制作のためのワークショップを行う。</p> <p>・ワークショップ(以下、「WS」という)スケジュール 【平成28年度】 平成28年11月より、千葉県内各中高等学校および千葉市科学館内で参加者の募集を行う。 平成28年11月～12月、希望する学校でのWSの実施や、科学館でのWSを開催。参加者の内希望者には、日本科学未来館の視察も実施。 平成29年2月、千葉市科学館でシナリオのプレゼンテーション大会を開催。 平成29年2月～3月に優秀作品のブラッシュアップを行う。 【平成29年度】 平成29年4月に、千葉市科学館で優秀作品の中から、一般投票により日本代表作品を選出。 平成29年5月、日本代表作品の発表及び表彰を実施。</p>

ウ ミュージアムトライアングル連携事業

業務項目	業務内容
相互割引の実施	<p>千葉市科学館・千葉市美術館の相互利用を目的に、各施設の半券、年間パスポートを提示いただいた利用者に対し、各施設で設定されている団体割引料金を適用する。</p> <p>実施している旨を受付カウンターや10階スカイガーデンなどに周知。また、ホームページなどにも掲示する。</p> <p>また、連携事業については、担当者にて都度、各館ごとに提案し、調整が付き次第、実施する</p>

ちばミュージアム ウォーク	地域文化活性事業の一環として、近隣の文化施設がテーマを決めて、複数のイベントを実施し、市民の方々に各施設で文化に触れていただくことで街の賑わいを創出する
------------------	--

エ リピーター対策事業

【千葉市科学館メンバー会運営業務】

初めての来館から次回の来館へ、そしてメンバー会入会へと繋がるよう、科学館の事業やメンバー会の特典を紹介する。また入会したメンバーが毎年更新してもらえるように、利用目的の傾向を把握し、様々な層に魅力を感じられる案内を行う

業務項目	業務内容
科学館情報の発信	メールマガジン(適時発行) 会報誌「Waku-WaQ」(7月・10月・12月・3月発送) 館内掲示板(イベントの告知など)
メンバー限定事業の実施	メンバー限定のイベント、講座を企画実施し、会員の満足度向上、メンバー会の魅力向上を目指す。
特典・サービス規定の明確化	会員からの問合せや要望などをもとにして、制度としての会員特典やサービス内容の具体化・明確化を図り、機会の均等・公平性の確保に努める。会員特典であるポイントについては、入会時のご案内のほか、企画展・特別展の入場券と引き換え可能であることを企画展広報物に掲載し周知する
他館との相互割引	日本科学未来館、科学技術館、千葉市動物公園、千葉市美術館との相互割引(団体料金適用)を実施する。また、新たに未就学児対象の施設との相互割引を検討する
会員継続・更新の促進	更新時期にあわせ2ヶ月前に更新手続きについてDMはがきやメールで会員全員にお知らせするほか、ホームページで案内する。 また、科学館7階受付及び各フロアで告知する。有効期限内更新の特典として、30ポイントを加算する

【千葉市科学館メンバー会運営業務以外のリピーター対策事業(各事業計画立案の視座)】

来館されたことのないお客様の来館促進

- ・ 科学館の活動内容を中心とした広報活動をより広域によりきめ細かく展開し、初めての来館につなげる。またTwitterを活用し、これまで情報を受け取ることができなかった層にもアプローチを広げる
- ・ お客様の属性にあわせた、きめ細かな魅力ある講座・講演会、イベント等の企画、広報の実施
潜在顧客が多数見込まれる各種文化施設などへの出前ワークショップの実施
- ・ 地域の施設・団体などとの積極的な連携による科学館事業の認知・露出度の向上
- ・ 再来館の促進

- ・ 科学館で開催される講演会・講座・サイエンスショー等について先駆けの話題に対応した企画を実施し、それぞれにきめ細かな対応をする
- ・ 年代別に興味を引くテーマを決めて実施する
- ・ アンケート結果を踏まえ、大人向けの講演会・企画・イベント等を充実させる
- ・ 一般団体の下見は、7階受付で団体名、連絡先をうかがった上で、1団体につき5名まで、常設展示・企画展・プラネタリウム1回を無料に対応する(予約の有無は問わない)。

オ ミュージアムショップ運営事業

【基本方針】

- ・ 科学館事業との相乗効果が発揮されるような施策を展開する
- ・ 陳列及び品揃え、接客に関して、工夫と更新を継続的に行ないショップイメージを高める
- ・ 事業の安定性や継続性を確保する観点から、利用率の高い運営を行い、安定的な収益を確保する
- ・ 書籍販売を単なる販売ではなく、レファレンス機能を持たせ、今日的な科学情報を閲覧、購入できる環境を整備
- ・ 特別投影のチラシ、メンバー会会報誌にて扱い商品の紹介を行う
- ・ 「科学フェスタ」や「市民の日」の無料開放日に日頃の感謝をこめて「ディスカウントフェア」を実施する

【営業時間】

- ・ 平日※ 10:00～19:00(特別投影時は20時まで延長を検討)
- ・ 土日祝日 9:00～19:00(特別投影時は20時まで延長を検討)
- ・ 学校の長期休暇期間中の平日については9:00開店とする。

【運営体制など】

- ・ 専任の職員を1人/日配置
- ・ 月次で実地棚卸を行い、帳簿在庫と実在庫の照合を行う

【展開例】

項目	概要
オリジナル商品の開発	お土産としての要素が高い、比較的安価で買やすいオリジナル商品を少しずつ開発して定番商品に育てる
特別展等のテーマに関連した商品販売	プラネタリウムで使った音楽や、特別展のテーマに関連した商品などを短期的に追加投入し、楽しさの幅を広げお客様のニーズに応える

プレゼント向け・大人向け商品の充実	大人向け商品を充実。海外のミュージアムショップのようにプレゼント好適品を扱う店舗イメージをつくる
科学駄菓子ブランドの確立	昔の駄菓子屋のように、子どものお小遣いで気軽に買える価格帯の商品を充実、子どもの科学への興味をかきたてるような「科学駄菓子屋」のブランドを確立する(宇宙大豆クッキー販売中)
科学コンビニ	試験管、リトマス試験紙、偏光シートなど、科学実験や科学工作では定番のアイテムを充実。地域の「科学コンビニ」として定着をはかる

2 入館の制限に関する業務

【基本的な考え方】

千葉市科学館は公の施設であり、利用機会の平等、公平性が担保されねばならない。すべての利用者が限りなく平等・公平に利用できるように、安全上の観点からやむを得ない状況以外において利用制限は行わない。利用制限については千葉市科学館設置管理条例、千葉市科学館管理規則の定めに基づいて運用を行う。

【運用】

- ・ 千葉市科学館設置管理条例第 8 条及び千葉市科学館管理規則第 7 条を遵守し、運用を行う。
- ・ 入館制限の前提となる利用に関する条件や理由を明記し、科学館 7 階受付にて文書を掲出し利用者への理解を求める
- ・ 設置管理条例第 8 条によって入館を制限、あるいは施設よりの退館を命ずる場合は、指定管理者が定めた不審者対応マニュアルに基づいて対処するものとする。

3 維持管理業務

(1) 保守管理業務

ア 展示構造物等保守管理(教育普及チーム実施内容)

【日常点検・保守】

運営開始前

- ・ 電源立ち上げ後各装置、検索装置等の起動状況を確認
- ・ 小物類の員数確認

運営時間中

- ・ 各装置、検索装置等の動作不良時の再起動
- ・ 鏡、ガラス、タッチパネルの清掃(指紋等拭き取り)
- ・ カウンター、壁等の清掃(ワークショップによる汚れ等拭き取り)
- ・ 照明、小物等の消耗品の状況確認
- ・ 水琴窟への水補給(適宜)
- ・ 10階水槽魚類飼育(餌やり 水温記録 ガラス面の藻清掃)

運営終了後

- ・ 電源立ち落とし後各装置、検索装置等の状況を確認
- ・ 各展示事業(ワークショップ等)、講座等に関するデータは日常的にバックアップを作成。

【定期点検・修繕依頼】

一般利用者の利便を第一に展示構造物等に不具合が発生した場合は、随時施設管理チームに連絡し、点検、修繕の検討を依頼する。

イ 展示構造物等保守管理(総務施設管理チーム実施内容)

【日常点検・保守】

■ 安全点検

- ・ 展示構造物等の劣化・損傷により身体に障害が生じる可能性が高い箇所を重点的に実施
- ・ 平成28年度の保守履歴の検討により展示装置の早期故障対応や予防策を実施

■ 機能点検・補修

- ・ 動作不良、機能低下が発生しやすい箇所の点検と補修
(8階コマドリスタジオ 9階メカニカルウォール センサールーム 電子回路キューブ 10階気象ドーム ムーンウォーカー)

- ・ 各装置ギア関連の注油作業(適宜)

【定期点検】

■ 一般機器点検日

- ・ 消耗品点検・交換(展示構造物に取り付けられた照明器具及びプロジェクタ装置のランプ)
- ・ プロジェクタ等の固定状況の確認
- ・ 展示用パソコンの動作確認・清掃(四半期に1回程度)

■ 重点機器点検日(プラネタリウム機器点検日、プラネタリウム番組入れ替え日等)

- ・ 展示用パソコンの保守点検(ハードディスクチェック、最適化、電池交換の実施)
- ・ 塗装剥離部の塗装(短時間乾燥分は一般機器点検時に実施)
- ・ 各展示構造物(装置)動作調整及び修繕

【修繕対応】

- ・ 日常点検・保守の範囲を超えた展示構造物等の機能低下、破損、盗難が発生した場合は、専門業者による修繕を実施する
- ・ 展示構造物等の各部位(制御、駆動等)の製造元一覧に基づき、展示構造物の不具合箇所に応じた各専門業者への修繕を依頼する

【平成 29 年度強化業務】

■ 学校夏季休暇前対応

- ・ これまでの保守履歴を再検討し学校の長期休暇を前に、動作不良、機能低下が発生しやすい箇所の予防保全(調整補修等)を実施する
(8階コマ撮りスタジオ 9階メカニカルウォール センサールーム 電子回路キューブ 10階気象ドーム ムーンウォーカー)

■ 盗難破損対応

- ・ 展示意図から露出で展示している箇所の盗難破損を検討し、展示意図を損なわない方法で再発防止を実施する。

■ 経年劣化の対応強化

- ・ 経年劣化や運用負荷による展示什器や壁面の塗装剥離箇所の補修対応に重点を置くとともに、畳・合皮材料など劣化に伴い張替えが必要な箇所を検討し実施を行う。
- ・ 制御装置などに使われている各種部品やUPS(無停電電源装置)のバッテリーなどの寿命となる消耗品を随時交換する。
- ・ パソコンの HDD(ハードディスクドライブ)やメモリなど突発的な故障に備えた対応と、機器延命のためパソコン本体のソフト・ハード両面のメンテナンスの実施を強化し行う。特に、セキュリティを必要としないスタンドアロン構成の展示パソコン(OS:WindowsXP)に関しては、メーカーサポート

が終了。部品交換・ソフト面での対応が困難な場合には、ハードのリプレイスの準備を行う。

- ・ 展示装置の各種大型装置・機器(プラズマディスプレイ・プロジェクタなど)の寿命故障に備え、今後のリプレイスの準備を行う。(館内中央吹き抜けオブジェのプロジェクタ、10階展示「千葉の空」のプロジェクタなど)
- 定期清掃業務の強化
 - ・ 10階スカイガーデンの臨時清掃業務を次年度も継続実施(指定管理者業務)。該当箇所は来館者が飲食に使用する場所であり衛生面での安全確保を重視して実施する。
 - ・ プラネタリウムの床カーペット清掃を20年度から継続し、年1回実施から、年2回実施に変更
 - ・ プラネタリウムシート 清掃年2回実施
- 屋上リモート天文台11年目点検
 - ・ 耐用年数を迎えている機器や装置劣化部の延命措置を図る目的で、ドーム装置等の点検(エンコーダーユニット、トロリ線清掃、極軸調整など)を開館11年目の節目に実施する。また、故障した場合にリモート天文台の運用停止に繋がる制御パソコン等(OS:WindowsXP)に関して、装置の劣化状況を判断し、今後のリプレイスの準備を行う。

ウ プラネタリウム

【日常点検・保守】

投影開始前、投影時間中、投影終了時に該当時間の投影担当者により実施

- 投影開始前(初回投影回の60分前)
 - ・ 電源立ち上げ約20分経過後 チェックプログラムを起動。星の位置確認(本体投影機と全天周映像装置にズレがある場合は専門業者に修理依頼)(同期が取れない場合は専門業者に修理依頼)
 - ・ 全天周映像装置の点灯確認、色むら、明暗などの目視確認。(点灯が確認されない場合は回線不調の可能性があるので、パソコンのソフトプログラムの再起動、パソコンハードの再起動を状況に応じて実施。)
 - ・ 音響ハードディスクの同期確認
- 投影時間中
 - ・ 異音の発生、星の位置ズレに注意して投影実施
- 番組と番組の間
 - ・ 落とし物確認と合わせて座席の破損等がないか目視確認
 - ・ 機器チェックをコンソールにて実施
 - ・ 星の位置、音響の同期に不調が無いか確認
- 投影終了時
 - ・ 機器チェックをコンソールにて実施。正常な位置へ戻るかを確認。
 - ・ 本体投影機消灯後異音等の発生がないか確認

- ・ 全天周映像装置消灯

【定期点検】

- ・ 機器点検日(連続3日、年2回実施)
- ・ 保守点検内容は別途保守管理マニュアル作業項目一覧参照

【修繕対応】

- ・ 日常点検・保守の範囲を超えた機器の機能低下、破損、が発生した場合は、専門業者による修繕を実施する。依頼先は指定管理者募集要項に基づき、製造元株式会社五藤光学研究所とする

エ 情報システム機器

【日常点検・保守(館内保守)】

- ・ 起動確認
- ・ サーバー類を除くネットワークの接続するクライアントPCの画面にバグ等異常が発生していないかの確認(サーバー類は24時間稼働)
- ・ 随時モニターの実施
- ・ 展示室内のネットワーク接続PC及びMifareカードリーダーの稼働状況を専用モニターで確認

【定期点検・保守(専門技術者保守)】

科学館内のシステム状況を把握した外部専門技術者が、運用フェーズの課題解決、改善をはかって信頼性の高い環境を維持する

■ 専門技術者点検(週1回程度)

- ・ サーバー機器を中心に稼働記録データによる確認及び対策

■ 一般機器点検日(毎月最終月曜日)

- ・ 「点検チェックシート」に沿った作業を実施

■ 重点機器点検日(プラネタリウム機器点検日、プラネタリウム番組、入れ替え等)

- ・ サーバーソフト入れ替え
- ・ サーバー機器ソフトのアップデート、稼働記録データによる確認及び対策
(ソフト動作目視点検、アップデートサポート、バックアップサポート、接続部のゆるみ、清掃など)

【修理対応】

日常点検・保守、定期点検・保守の範囲を超えた機器類の障害が発生した場合は、専門業者による修繕を実施する

【平成 29 年度強化業務】

■ きぼーる施設全体 法令電気点検時対応

きぼーる複合ビル全体の法令電気点検(年1回 5 月実施)で、サーバー機器及びネットワーク機器類に支障が生じないように、法令電気点検に伴う停電前後の対応作業の徹底を図る

■ クライアント機器の対応強化

サーバーからのサービスを受けるクライアント機器(受付・事務室内職員パソコンなど)の入替えから5年目となるため、経年使用で生じる不具合の軽減および今後も末永く利用するためのハード・ソフト両面のメンテナンスを行うとともに、常時、必要なバックアップの構築を行い突発的な故障によって業務支障が生じないように努める

■ 9階サーバールーム内 ネットワーク機器等の更新について

9階サーバールーム及び各階EPS室内に設置しているネットワーク機器(平成19年の開館から24時間稼動)が耐用年数を迎え耐久性が大きく低下している。また、機器サポート終了により故障時の修理対応が出来ない状況にあるため、ネットワーク機器の中で故障時に館の運用に致命的な障害を及ぼす機器において特に大きな影響が懸念される回線系統(券売機や事務処理支援システム、インターネット、メール等に関するネットワーク装置)の事前リプレースの準備を行う

オ 建築設備

エレベータ、エスカレータ保守はきぼーる管理組合にて実施であるが、科学館においても動作に異常がないか留意し、異変時はきぼーる管理組合・防災センターと連携して復旧に努める

【来館者用エレベータの天井演出に関して】

来館者用エレベータ(3号・4号)の天井演出照明が年1回実施の施設電気点検の影響により機器(データランス)故障が生じて演出動作が停止。電気点検による影響を受けない照明システムの検討を行い復旧に向けて努める

【授乳室の設置に関して】

利用者の要望に挙げられており、授乳室の設置を計画する

(2) 什器・備品管理業務

ア 日常点検・保守

■ 一般什器・備品員数確認

- ・ 日常的に備品台帳記載の員数及び設置場所、通常の利用に支障がないかを館職員全員が意識して使用し不具合、故障を予防する
- ・ 新年度開始4月に員数・使用状況、配置確認を実施、備品台帳との整合を確認する

■ 機器類員数・機能確認

- ・ 導入時相当の機能が確保されているか、利用時に不具合が生じないか、担当部門にて確認する

イ 定期点検

■ 機器類機能確認

- ・ 1回/年実施
- ・ 科学工作室 工作機器類
- ・ 科学実験室準備室 ドラフトチャンバー
- ・ 探究実験室・準備室 液体窒素発生装置 電子顕微鏡 ドラフトチャンバー

ウ 修繕対応

- ・ 日常点検・保守の範囲を超えた什器・備品等の機能低下、破損が発生した場合は、専門業者による修繕、調達を実施する
- ・ 備品台帳に基づき、内容に応じた各専門業者への修繕を依頼する

(3) 科学館バス駐車場管理業務

- ・ 駐車場利用許可申請
- ・ 駐車場利用料金徴収
- ・ バス乗降後の本施設への安全な誘導
- 駐車場の利用管理
 - ・ バス駐車場利用予定表による駐車場の状況把握

- ・ バス駐車場利用予定表は常時更新し、10 日毎に管理組合及び、防災センターに提出、連携を図る。追加・中止などの変更は速やかに連絡

■ 当日の受入体制 ※

- ・ バス到着連絡(10 分前)を受け、防災センターと科学館スタッフが駐車場に待機
- ・ バス到着に伴い防災センターは周囲の安全確認を実施。駐車場にバスを誘導、降車
- ・ 科学館スタッフは乗降時、利用者を本施設に誘導。道路横断の際には周囲安全確保に防災センターの協力を得る
- ・ バス駐車場の管理運営については、規定様式を利用して正しく管理を行う
- ・ バス駐車場を利用できる自動車の区分については、科学館管理規則第 15 条に定める
- ・ それ以外の車輛については、所管課と協議し利用の可否を決定する

(4) 廃棄物処理業務

ア 一般廃棄物

- ・ 管理組合・防災センターに収集を委託
- ・ 分別収集を徹底

イ 産業廃棄物

【教育普及チームにより実施】

- ・ 薬品管理台帳の整備(当初量、使用量、残量が把握できるように記載)
- ・ 廃液、汚泥発生時の一時処理

【総務設備管理チームにより実施】

- ・ 廃液、汚泥の処分(産業廃棄物処理業者)

4 経営管理業務

(1) 事業報告書の作成業務

- ・ 日報として「入館者明細表」を作成、千葉市教育委員会へ毎日報告する
- ・ 月次事業報告書を翌月の 10 日までに作成し、収支報告書を添付して提出する
- ・ 月次報告書に基づいて、市教育委員会様及び指定管理者・千葉市科学館で「運営協議会」を原則毎月 1 回開催する
- ・ 上記「運営協議会」において、四半期ごとに今までの振り返り総括と今後の事業計画内容の見直し・修正を協議する場とする
- ・ 平成 29 年度の事業報告書は、平成 30 年 4 月 30 日までに作成、収支決算書を添付して提出する

(2) 事業評価業務

- ・ ハガキによるアンケート調査の集計を踏まえ、その意見・要望の反映策の実施状況を科学館内に掲出し公表する
- ・ 館運営の全体を聞くハガキアンケートとは別に、自主事業及びメンバー会事業において、当該事業の参加者を対象にした個別アンケートを実施し、利用者増につなげる
- ・ 管理業務の実施状況に関する自己評価(セルフモニタリング)を毎月行い、月次事業報告書に記載する
- ・ ハガキの回収数が上がるよう、定期的にテコ入れを行う
- ・ ボランティアの協力のもと、来館者へのヒアリング調査を実施。ハガキアンケート、券売のデータでは把握できない来館者属性を調査、検証を行う

(3) 関係機関等との連絡調整業務

市や財団法人産業振興財団、商工会議所、市観光協会などの関係機関と継続的にコミュニケーションを図り、相互の利用促進活動に努め、各種依頼・調整事項には誠意を持って対応し協力関係を構築する

(4) 再委託

ア 再委託の対象と留意点

再委託にあたっては、「当該委託業務が極めて専門性が高く、再委託を行うことにより質の高いサービスの提供が安定的に見込まれること」、「再委託先に対して、委託元としての管理責任を明確にし、再委託内容の詳細についてチェックできる管理体制を構築すること」に留意する

再委託先一覧

業務区分	再委託業務名	再委託先
基本的業務	ホームページ更新	(株)メディアライン 千葉支店
	10F 臨時清掃	大成有楽不動産(株)
展示事業	サイエンスショー	(株)ア・メイズ、WAO コーポレーション
教育普及事業	火星ローバーコンテスト会場設営等	(株)アーク・アイ・コーポレーション
	土日講座など	NPO 法人ちばサイエンスの会
	土日講座など	NPO 法人ちば算数・数学を楽しむ会
	土日講座など	ニルス理科実験クラブ
保守管理業務	リモート天文台システム	(株)NTT ファシリティーズ
	気象観測装置	(財)日本気象協会
	展示装置類	(株)共立模型
	展示装置類	(株)木下製作所
	プラネタリウム機器	(株)五藤光学研究所
	ドラフトチャンバー	(株)島津理化
	液体窒素発生装置	岩谷産業(株)
	走査電子顕微鏡(SEM)	日本電子(株)
	照明器具交換	(株)チカラムス
	廃液処理	(株)ミヤマ
	情報系設備	日立システムズ・テクノサービス(株)
	情報系ソフトウェア保守	(株)CBS 情報

5 自主事業計画

(1) 特別講座運営事業

- ・ 対象層を絞り、その層に特有の興味や関心が強いテーマを設定する
- ・ 持ち帰りができたり、深く掘り下げた内容にするなど、受講の魅力度を高める
- ・ 工作の場合でも、工作するだけでなく周辺・関連の知識や実験を織り交ぜながら「モノ」の背景にある「科学」を楽しく紹介する
- ・ 前指定管理者が平成 28 年度中に準備していた自主事業に関しては継続開催する

講座区分	テーマ・概要
高度な内容の講座	「トークイベント」 ○実施回数:年間数回 ○対象:小学生以上・定員 200 名 ○場所:企画展示室 ○内容:専門性の高い講師を活用し応用的なテーマを題材として 千葉県科学館の特色を活かしたトークイベントと質疑応答
身近な内容の講座	「星とみらいの学校」 ○実施回数:年 3 回 ○対象:小学生とその保護者 ○場所:企画展示室 ○内容:利用者数の拡大が図れる講座として、身近なテーマを設定し、トークイベントや体験創造工房を実施

(2) プラネタリウム特別投影事業

- ・ プラネタリウム空間・機能を活用した「多目的・二次的利用」又は「プラネタリウムとの融合利用」による新たな体験を創出する
- ・ 「プラネタリウム体験」による新たな科学館利用層の開拓につなげる

投影区分	テーマ・概要
音楽との組合せ	「星空コンサート」 ○実施回数:年 4 回 ○対象:年齢制限なし ○内容:ジャンル、楽器、演奏家などの選択に留意し、シリーズ化を図り、自主事業の目玉として拡充していく
香りとの組合せ	「フィールアロマ」 ○実施回数:月 2 回 ○対象:年齢制限なし ○内容:星空とエッセンシャルオイルを使ったアロマの香りと音楽によるリラクゼーションプログラム

異分野との コラボレーション	「星空ヨガ」 ○実施回数:年4回 ○対象:年齢制限なし ○内容:新たな利用者層獲得を目的とし、プラネタリウム内にて星空を見ながらヨガ体験を行う。ヨガのみでなく、講師のトークによりヨガと天文との関連について触れるものとする
-------------------	---

6 収支計画

(1)様式第4号 平成29年度管理業務に関する収支予算書

(1) 収入

(A) 収入合計 (千円)		470,496
---------------	--	---------

		内 訳	合計金額 (千円)
①	市からの指定管理料		376,233
②	利用料金収入		65,017
項 目	常設展示収入	227,000人想定 (無料入館者含む)	32,100
	プラネタリウム収入	140,500人想定 (無料入館者含む)	23,617
	企画展収入	58,000人想定 (無料入館者含む)	8,400
	駐車場		900
		入館者数合計425,500人想定(無料入館者含む)	
③	その他収入		29,246
項 目	ミュージアムショップ	ミュージアムショップ売上	23,564
	メンバー会年会費	メンバー会年会費収入	4,500
	支援金	発明協会を想定	200
	工作材料費		982

(2) 支出

(B) 支出合計 (千円)		470,496
---------------	--	---------

		積 算 内 訳	合計金額 (千円)
① 管理運営費			
項 目	人件費 (法廷福利費は給与に含 む)	館長	9,435 1名
		副館長	8,091 1名
		副館長 (教育AD)	6,747 1名
		教育普及グループ長	6,747 1名
		運営管理グループ長	6,747 1名
		チームリーダーS	7,581 1名
		チームリーダーM	5,211 3名
		チームサブリーダーS	5,394 1名
		チームサブリーダーM	4,424 6名
		スタッフ	3,655 35名
		教育アドバイザー	3,162 4名
		非常勤相談役	1,300 1名
		アルバイト	8,306
		福利厚生費	981
		244,079	

		区 分	積 算 内 訳	合計金額 (千円)
項 目	事務費・ 管理費	報償費	ボランティア活動報奨金等	8,000
		旅費	職員、講師、借り上げバス、レンタカー代等	3,240
		消耗品費	管理運営、館内及び展示用	2,945
		図書資料費	展示参考図書等	196
		印刷製本費	活動、広報用チラシ等	4,909
		展示製作費	企画展、特別企画展製作等	11,095
		材料費	講座、工作、実験等の材料費	3,436
		光熱水費	電気、ガス、水道	49,091
		通信運搬費	インターネット、電話、宅急便利用料金	4,124
		諸謝金	講座、講演他の講師に対する謝金	3,500
		賃借料	無線、コピー、プラネ番組等	16,004
		保険料	各種保険加入	1,964
		公課費	租税公課	10
		清掃費	日常清掃、定期清掃等	1,473
		設備機器管理費	昇降機、電気設備、放送設備、空調設備、大型映像、散水設備、自動ドア、監視設備等	295
		保守点検費	展示、設備保守管理等	491
		修繕費	展示物修繕等	1,964
		その他	加盟団体負担金、その他雑費	884
		ショップ原価	ミュージアムショップ取扱い商品	16,495
		一般管理費	管理運営に対する管理費	25,610
	委託費	広報費(印刷、媒体)、ホームページ、サイエンスショー、土日講座、各種科学講座(サマースクール等)、保守点検(気象観測機器、射天文台、展示物、情報システム等)、館施設の施設管理、清掃業務、館内カー管理・メンテナンス、科学実験廃棄物処理等	68,727	
②管理に係る備品購入費				
項目	什器備品費	什器備品費	什器備品等の購入費	1,964

計 226,417 千円

(2)様式第4号 平成29年度自主事業に関する収支予算書

(1) 収入

(A)収入合計 (千円)		2,578
--------------	--	-------

		内 訳	合計金額 (千円)
項 目	トークイベント	参加費無料 6回開催	0
	星とみらいの学校	工作材料費@500×100組×3回 3回開催	150
	星空コンサート	@1,500×180名×4回	1,080
	星空ヨガ	@800×35名×4回	112
	フィールアロマ	高校生以上@600×80名×24回 小・中学生@350×10名×24回	1,236

(2) 支出

(B)支出合計 (千円)		2,204
--------------	--	-------

		積 算 内 訳	合計金額 (千円)
(B) 支出合計			
項 目	人件費	<講師謝金> トークイベント @56,000円×6回 星とみらいの学校 @56,000円×3回 星空ヨガ @25,000円×4回	604
	事務費・管理費	チラシ印刷費 トークイベント @150,000×2回 星とみらいの学校 @150,000×1回 星空コンサート @150,000×2回 フィールアロマ @150,000×2回 星空ヨガ @150,000×2回 アロマ装置 @100,000 工作材料費 @500×100×3回	1,600
収支 (A)-(B)			374